科目名	教師論	科目コード	W61001	単位数 時　間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
		科目ナンバリング	T-TLFU2-02.NK		30時間				
区分	教職科目	必修	担当者名	奥野　武志			授業 形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 本授業では、当該回のテーマについて担当教員が講義を行った後、受講者がグループに分かれて意見交換を行い、代表者が前に出てグループで出た意見を発表する。さらに各自が気づいたことを文章化することを通して、教職という職業について様々な角度から考察する機会を受講者に提供するものである。教職について深く理解した上で、自らの職業として選択するかどうか受講者が判断できるようになることを目指す。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。
到達目標	1)　公教育の意義を理解し、教職の社会的意義について説明できる。 2)　教職に求められる社会的役割について理解し、必要な資質能力について説明できる。 3)　教職の全体像を理解し、研修の意義と服務上・身分上の義務について説明できる。 4)　教職の諸課題を理解し、組織的に解決に取り組む必要性について説明できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス	・本授業の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明	
第2回	教師観の変遷	・教師観の歴史的変遷を理解し、理想の教師像について考察する。	
第3回	教員養成の歴史	・教員養成の歴史を理解し、教員養成のあり方について考察する。	
第4回	教員の職務の実際（１）	・学級指導の実例をもとに、担任業務の意義について考察する。	
第5回	教員の職務の実際（２）	・生徒指導の実例をもとに、生徒指導の意義について考察する。	
第6回	教員に求められる資質と能力	・教育活動の事例をもとに、教員に求められる資質と能力について考察する。	
第7回	学校の組織と運営	・学校の組織と運営について理解し、「チーム学校」のあり方について考察する。	
第8回	現代社会と教職（１）	・学校教育における国際化について理解し、今後の教職のあり方について考察する。	
第9回	現代社会と教職（２）	・学校教育における情報化について理解し、今後の教職のあり方について考察する。	
第10回	研修の意義	・研修制度について理解し、研修の意義について考察する。	
第11回	教職をめぐる諸問題	・教職についてどのようなことが課題とされているか理解し、今後の教職のあり方について考察する。	
第12回	教育改革の動き	・教育改革の現状について理解し、教育改革のあり方について考察する。	
第13回	教員の任用と服務	・教員の任用と服務についての規定を理解し、教員の服務のあり方について考察する。	
第14回	採用と選考	・教員採用と選考の流れを理解し、教員採用のあり方について考察する。	
第15回	まとめ	・授業全体の総括	

授業方法(ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ、ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞ等)	グループワーク	発表、ポスター作成	誘導ディスカッション	まとめアクティビティ	リフレクションシート			

評価方法及び評価基準	評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。 ・授業への取り組み（グループワーク、振り返り）：50% ・まとめレポート　：50%
課題等	・教師は毎回の授業でグループ発表に対してコメントする。 ・振り返りはteamsを通じて提出する。
事前事後学修	・事前学修：日頃から教育に関するニュースに親しみ、何が問題となっているか把握しておく。 ・事後学修：授業を通じて浮かんだ疑問について調べる。事前事後合わせて3時間程度の学修を想定している。
教材 教科書 参考書	・教科書は特に指定しない。毎回授業レジュメを配布し、参考書等を適宜紹介する。
留意点	・授業計画はあくまで予定である。参加学生の興味関心等に応じて授業内容が変わることがある。

科目名	教育原理	科目コード	W61024	単位数 時　間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
		科目ナンバリング	T-TLFU2-00.NKS		30時間				

区分	教職科目	必修	担当者名	奥野　武志	授業 形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 本授業は、教職の道を志す者が、最低限理解しておくべき「教育」に関する先人の努力の成果を概観し全体像を把握するためのものである。具体的には、「教育」に関する理論や歴史の基礎について担当教員が講義を行った後、受講者がグループに分かれて意見交換を行い、代表者が前に出てグループで出た意見を発表する。さらに各自が気づいたことを文章化することを通して、現代の「教育」についての理解を深めていくことを目指す。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。
到達目標	1)　教育の基本的概念を理解し、教育を成り立たせる諸要因との相互関係について説明できる。 2)　教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、現代社会における教育課題を歴史的視点から説明できる。 3)　教育に関する様々な思想を理解し、現在の学校教育との関わりについて説明できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス	・授業の目的・概要・方法を理解し、教育とは何かについて考察する。	
第2回	発達という概念	・発達という概念を理解し、発達をめぐる問題について考察する。	
第3回	教育目的という概念	・教育目的という概念を理解し、教育目的のあり方について考察する。	
第4回	古代ギリシアの教育	・古代ギリシアの教育とソクラテス・プラトンの思想を理解し、現代の教育問題について考察する。	
第5回	宗教改革と教育	・宗教改革と教育の関係を理解し、宗教と教育の関係について考察する。	
第6回	コメニウスの教育理論	・コメニウスの教育理論を理解し、現代の教育問題について考察する。	
第7回	ルソーの教育理論	・ルソーの教育理論を理解し、現代の教育問題について考察する。	
第8回	フランス革命期の公教育構想	・コンドルセの公教育論を理解し、現代の公教育をめぐる問題について考察する。	
第9回	デューイの教育理論・発見学習	・デューイの教育理論と発見学習について理解し、現代の教育問題について考察する。	
第10回	マカレンコの教育理論	・マカレンコの教育理論を理解し、現代の教育問題について考察する。	
第11回	日本における近代学校教育制度の成立	・日本における近代学校教育制度の成立過程を理解し、現代の教育問題について考察する。	
第12回	教育勅語体制	・近代日本の教育勅語体制について理解し、現代の教育問題について考察する。	
第13回	大正・昭和戦前期の教育	・大正・昭和戦前期の教育の実態を理解し、現在の教育とのつながりについて考察する。	
第14回	戦後日本の教育改革	・戦後日本の教育改革について理解し、現在の教育とのつながりについて考察する。	
第15回	まとめ	・授業全体の総括	

授業方法(オンデマンド、アクティブ・ラーニング等)	グループワーク	誘導ディスカッション	発表、ポスター作成	まとめアクティビティ	リフレクションシート			

評価方法及び評価基準	評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。 ・授業への取り組み（グループワーク、振り返り）：50% ・まとめレポート　：50%
課題等	・教師は毎回の授業でグループ発表に対してコメントする。 ・振り返りはteamsを通じて提出する。
事前事後学修	・事前学修：日頃から教育に関するニュースに親しみ、何が問題となっているか把握しておく。 ・事後学修：授業を通じて浮かんだ疑問について調べる。事前事後合わせて3時間程度の学修を想定している。
教材 教科書 参考書	・教科書　湯川次義他『最新　よくわかる教育の基礎』学文社、2019年。(ISBN: 978-4762028700)
留意点	・授業計画はあくまで予定である。参加学生の興味関心等に応じて授業内容が変わることがある。

科目名	教育史	科目コード	W61023	単位数 時　間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	後期
		科目ナンバリング	T-TLFU2-01.NK						
区分	教職科目 教職科目(高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	奥野　武志			授業 形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 弘前市教育委員会『弘前市教育史』を輪読しながら疑問点を議論することを通して、東北屈指の学園都市・弘前がどのように形成されてきたのかを多角的な視点から理解する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。
到達目標	1)本学が位置する学園都市弘前の成り立ちについて説明できる。 2)近代日本の教育の歴史について、地域の実態を踏まえて説明できる。 3)広い視野から地域の歴史を考えることができる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス	・本授業の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明	
第2回	藩政時代の教育	・城下町弘前とその特質	
第3回	「学制」の実施と小学校の設立（1）	・文部省の設置～学制の実施	
第4回	「学制」の実施と小学校の設立（2）	・弘前の小学校～新しい子ども	
第5回	「学制」の実施と小学校の設立（3）	・一番小学と二番小学～小学生徒心得	
第6回	「学制」の実施と小学校の設立（4）	・小学の種別～小学課業表	
第7回	「学制」の実施と小学校の設立（5）	・校地と校舎～学区取締	
第8回	「学制」の実施と小学校の設立（6）	・学校維持費～祝賀	
第9回	「学制」の実施と小学校の設立（7）	・時間割と席次～試験法と試験	
第10回	「学制」の実施と小学校の設立（8）	・地方集合試験～亀甲小学創設	
第11回	「学制」の実施と小学校の設立（9）	・含英女小学創設～就学状況	
第12回	「学制」の実施と小学校の設立（10）	・「学区割」と「聯区割」の実施	
第13回	「学制」の実施と小学校の設立（11）	・弘前の聯区割実施	
第14回	「学制」の実施と小学校の設立（12）	・学事奨励～学田の実施	
第15回	「学制」の実施と小学校の設立（13）	・弘前各小学の学田～白銀小学「朝陽」と改称	

授業方法(オンデマンド、アクティブ・ラーニング等)	発表、ポスター作成	誘導ディスカッション						

評価方法及び評価基準	評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。 ・平常点：100%　　テキスト音読の出来・ディスカッションへの参加度を評価する。
課題等	・テキストを読み進めていく上で浮かぶ疑問を積極的に出し合い、その場で議論する。
事前事後学修	・事前学修：テキストを音読できるよう分からない言葉を調べておく。 ・事後学修：テキストを読み進めるなかで浮かんだ疑問について調べる。 事前事後合わせて3時間程度の学修を想定している。
教材教科書参考書	・教科書：弘前市教育委員会『弘前市教育史　上巻』(1975年、ISBN: なし）から必要部分をコピーして配布する。
留意点	・授業計画はあくまで予定である。参加学生の興味関心等に応じて授業内容が変わることがある。

科目名	教育心理学	科目コード	W61004	単位数 時　間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	前期
		科目ナンバリング	T-TLFU2-04.NKN						
区分	教職科目	必修	担当者名	山本　尚樹			授業 形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 この授業では教育実践を念頭に置きながら人の発達と学習のメカニズムと、両者の関係を概説していきます。特に、「言語」をはじめとする人の心の能力の発達の道筋と、学習過程に関する心理学の理論や研究を紹介していきます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。
到達目標	１）　発達と教育の関係を理解する。 ２）　「言語」「認知」「数概念」などのコミュニケーションの基盤となる心的能力の発達過程の道筋と学習プロセスを理解する。 ３）　「記憶」や「問題解決」「動機づけ」「条件づけ」など学習の基盤となる要素の発達過程やメカニズムについて理解する。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス	授業全体の概要や履修上の注意点を説明する。	
第2回	発達と教育	“氏か育ちか”論争を軸に、発達と教育（学習）の関係について概説する。	
第3回	認知の発達	乳幼児期から小学校高学年、中学生までの認知の発達過程について概説する。	
第4回	言語の発達	言語について、乳幼児期からの発達過程とそのメカニズムについて学ぶ。	
第5回	数概念の発達と算数・数学の学習	数概念の発達について、算数・数学教育の研究事例から概説する。	
第6回	科学的認識・社会的認識の学習と教育	自然科学、社会科学教育に関わる抽象的概念の発達について説明する。	
第7回	記憶と文章理解	記憶や文章理解のメカニズムを軸に、知識の獲得過程について概説する。	
第8回	推理と問題解決	我々がどのように問題解決を行い、また推理をするのか、そのメカニズムを概説する。	
第9回	学習と条件づけ	学習過程の基本的な心理メカニズムと考えられる条件づけについて概説する。	
第10回	動機づけ	教育と強いかかわりのある動機づけに関する心理学の知見を概説する。	
第11回	個人差と学習指導法	学習に関する個人特性と、それにたいする指導法について概説する。	
第12回	授業における教授・学習過程	授業という形態が知識の教授・学習過程にどのように関わるか概説する。	
第13回	コンピューターによる学習指導	コンピューター利用のシステムの開発研究をたどり、その学習指導方法について検討する。	
第14回	教育的評価	学習の結果、性格などの個人属性についてどのような評価方法があるのか学ぶ。	
第15回	まとめとふりかえり	授業全体について総括、補足する。	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	資料記入	リフレクションシート						

評価方法及び評価基準	平常点（授業の参加態度、コメントペーパーなど）40%、期末レポート60%
課題等	毎回コメントペーパーの執筆を課す。他、期末レポートを課す。
事前事後学修	事前学習について、授業前にシラバスに書いてある主題について各自文献などで調査しておくこと。また、毎回の授業をノートをとり、事後学習として復習を行うこと。
教材教科書参考書	＊毎回の授業内容を記載したプリントは毎回配布する。その他、参照してほしい文献などがある場合適宜指示する。
留意点	特になし

科目名	教育制度論	科目コード 科目ナンバリング	W61026 T-TLFU2-03.NK	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	前期
区分	教職科目	必修	担当者名	大野　拓哉		授業形態	講義	単独	

授業の概要等	〔授業の主旨〕 「教育」と「法」という、一見馴染みにくそうな関係にあって、「法」はどのように「教育」に関わり、どのように「教育」という営為を捉え、支えているかを考える。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2,4-1,4-2,5-1,5-2,5-3に関連している。
到達目標	日本国憲法をはじめ、重要な教育法規に関して、その概要をつかみ、その要点を理解することを目指す。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容	備考
第1回	教育に関する法の概観	教育関係の法の体系を学ぶ	
第2回	日本国憲法①	日本国憲法26条「教育を受ける権利」「教育を受けさせる義務」	
第3回	日本国憲法②	日本国憲法23条「学問の自由」ほか	
第4回	子どもの権利条約	子どもの権利条約２条１項、３条１項、７条１項、13条ほか	
第5回	教育機関に関する規定①	学校の設置	
第6回	教育機関に関する規定②	学校の目的と編成	
第7回	教育機関に関する規定③	学校評議員制度と学校運営協議会	
第8回	教育課程に関する規定①	教育課程と学習指導要領、教科書	
第9回	教育課程に関する規定②	出欠席の管理、学年、学期	
第10回	児童・生徒等の就学に関する規定①	就学の権利と義務	
第11回	児童・生徒等の就学に関する規定②	生徒指導	
第12回	児童・生徒等の就学に関する規定③	学校における保健と安全	
第13回	教育職員に関する規定	免許、服務、分限、懲戒等	
第14回	教育行政・財政に関する規定	教育行政の組織、教育財政の仕組み	
第15回	総括	まとめと振り返り	

授業方法(オンデマンド、アクティブ・ラーニング等)	グループワーク							

評価方法及び評価基準	試験のみを評価の対象とする
課題等	特になし
事前事後学修	特に事後学修に関して、ノートの整理や支持された文献の参照などを行うこと
教材教科書参考書	高見茂・開沼太郎・宮村裕子編『教育法規スタートアップVer.3.0』ISBN:978-4812215098 昭和堂
留意点	教育六法等を常に教室に持参すること。随時、グループワークやディスカッションを行う

科目名	特別な教育的ニーズの理解とその支援	科目コード	W61025	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	後期
		科目ナンバリング	T-TLFU2-05.NK						
区分	教職科目	必修	担当者名	川村　泰弘 （実務経験のある教員）			授業形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 通常の学級にも発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等を有する、あるいは障害はないものの特別な教育的ニーズのある子どもたちがいる。本科目では、これらの子どもたちが、学校内外において達成感をもちながら意欲的に学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、彼らの学習上・生活上の困難を理解し、その教育的ニーズに応じて、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2,4-1,4-2,5-1,5-2,5-3に関連している。
到達目標	1.特別な教育的ニーズのある児童生徒に関わる近年の制度上の動向を理解する。 2.特別な教育的ニーズのある児童生徒が抱える困難や支援方法を理解する。 3.児童生徒の教育的ニーズに応じた学校組織における協働的な取組について理解する。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ノーマライゼーションの概念	ノーマリゼーションの理念とインクルーシブ教育システム誕生の歴史的経緯	
第2回	インクルーシブ教育	インクルーシブ教育システム構築に至る日本の教育制度の変遷	
第3回	特別支援教育	特殊教育と特別支援教育の相違点及び特別支援教育に関わる制度改正のポイント	
第4回	特別支援教育における支援とは	特別支援教育の場と教育・支援内容（通級による支援や自立活動等を含む）	
第5回	視覚障害・聴覚障害	視覚障害、聴覚障害に伴う生活及び学習上の困難と教育内容	
第6回	知的障害・肢体不自由・病弱	知的障害、肢体不自由及び病弱・身体虚弱の障害に伴う生活及び学習上の困難と教育内容	
第7回	LD（学習障害）	LD（学習障害）の特性と支援	
第8回	ADHD（注意欠陥多動性障害）	ADHD（注意欠陥多動性障害）の特性と支援	
第9回	ASD（自閉スペクトラム症）	ASD（自閉症スペクトラム症）の特性と支援	
第10回	貧困や母国語が異なるこどもたち	障害はないものの特別な教育的ニーズを有する子どもの特性と支援	
第11回	特別支援教育の校内体制	特別支援教育コーディネーターの役割と校内支援体制の構築	
第12回	個別の指導計画の活用	個別の指導計画等の作成の目的と活用方法	
第13回	保護者への対応	保護者との協力関係を構築するために必要な情報共有及び相談支援の基本	
第14回	連続性のある支援と関係機関との連携	多様な学びの場の提供と交流及び共同学習並びに、関係機関との連携による協働的な支援	
第15回	講義全体のまとめ	講義全体のまとめを行う。	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	誘導ディスカッション	グループワーク	ペアワーク	ロールプレイング	資料記入	授業中のノート取り		

評価方法及び評価基準	レポート（４０％）、試験（３０％）、授業への参加度（３０％）
課題等	第３回目、第６回目、第９回目、第１２回目の授業後に小レポートの課題を出す。小レポートは次の講義開始時に提出する。
事前事後学修	事前：次回の授業内容のポイント、キーワード等を提示するので、関連する情報を調べておくこと。 事後：資料を見て授業を振り返り、疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。
教材教科書参考書	教科書：随時、資料を配布する。
留意点	授業で学んだ内容について、随時関連事項を調べるなどして理解を深めてください。

科目名	道徳教育の理論と実践	科目コード	W61027	単位数 時　間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
		科目ナンバリング	T-TLSP2-00.NK		30時間				

区分	教職科目 教職科目(中一種)	選択 必修	担当者名	奥野　武志	授業 形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 学校における道徳教育の歴史を理解するとともに、指導案の作成や模擬授業を通して各自の道徳教育観を育むことを目指す。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。
到達目標	1) 道徳教育の歴史を理解し、その課題について自分の言葉で説明できる。 2) 学校における道徳教育の実践的な指導力が身についている。 3) 道徳科の特性を踏まえた指導計画を立案し実践することができる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス	・本授業の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明	
第2回	道徳教育の歴史（1）	・教育勅語と修身教育	
第3回	道徳教育の歴史（2）	・戦後教育改革と「道徳の時間」特設	
第4回	道徳教育の歴史（3）	・道徳の教科化	
第5回	特別の教科道徳（1）	・道徳教育の目標　道徳科の内容	
第6回	特別の教科道徳（2）	・道徳科の指導　道徳科の評価	
第7回	授業案の構想	・指導案の相互検討	
第8回	模擬授業	・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント	
第9回	模擬授業	・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント	
第10回	模擬授業	・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント	
第11回	模擬授業	・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント	
第12回	模擬授業	・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント	
第13回	模擬授業	・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント	
第14回	模擬授業	・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント	
第15回	まとめ	・全体の総括	

授業方法(ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ、ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞ等)	実習、フィールドワーク	グループワーク	発表、ポスター作成	誘導ディスカッション	まとめアクティビティ	リフレクションシート		

評価方法及び評価基準	評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。 ・授業への取り組み（グループワーク、振り返り）　50% ・模擬授業（指導案含む）　50%
課題等	・教師は毎回の授業でグループ発表や模擬授業に対してコメントする。 ・振り返りはオンラインteamsを通じて提出する。
事前事後学修	・事前学修：日頃から教育に関するニュースに親しみ、何が問題となっているか把握しておく。 ・事後学修：授業を通じて浮かんだ疑問について調べる。事前事後合わせて3時間程度の学修を想定している。
教材 教科書 参考書	教科書・文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科道徳編』2018年 (ISBN: 978-4316300849)
留意点	・授業計画はあくまで予定である。受講学生数等に応じて授業内容が変わることがある。

科目名	特別活動及び総合的な学習の時間指導法	科目コード	W61028	単位数 時　間	2単位	対象学年	2年	開講学期	前期
		科目ナンバリング	T-TLSP2-01.NK		30時間				
区分	教職科目	必修	担当者名	西東　克介			授業形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 学校の学級活動、生徒会活動、学校行事などが特別活動である。これらの活動が個人の「自律」と協働という2つの能力を向上させていくように教員・学校は配慮していきます。特別活動が個人と集団を比較すると、どちらかと言えば、集団に重心がおかれます。他方で、総合的な学習は、どちらかと言えば、個人の能力をより伸ばそうとするものです。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2,4-1,4-2,5-1,5-2,5-3に関連している。
到達目標	個人と個人、個人と集団、集団と集団、小さな集団と大きな集団など様々な共同作業の中で、調整と対立が生じます。その中で、個人や集団はどのように考え・行動すべきか。その中心となる基本的な考えや行動について学んでいきます。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	本講義・展開方法・発表・レポートについて	発表は義務です。発表内容からレポートを仕上げてもらいます。	
第2回	特別活動と教育委過程	学習指導要領から特別活動の定義と目標を考察し、理解。	
第3回	特別活動の基本的性格	特別活動の基本的性格と教育的意義の理解。	
第4回	特別活動と各教科、道徳、総合的な学習時間との関連	特別活動と各教科、道徳、総合的な学習時間との関連で、最も重要な点は、目に見える活動を通じて3え、点数化や評価がしにくい部分の能力向上を目指していることの理解。	
第5回	学級活動（ホームルーム活動）・生徒会活動・学校行事とは何か	学級活動（ホームルーム活動）・生徒会活動学校行事長所と短所を考察し、理解。	
第6回	学級活動（ホームルーム活動）・生徒会活動・学校行事の関係と意義	「目に見える」・「目に見えない」視点から3つの活動の共通点を考察し、理解。	
第7回	総合的な学習とは何か	総合的な学習と各教科学習の違いとその意義の理解。	
第8回	総合的な学習の事例を学ぶ	総合的な学習と特別な活動の違いと共通点を考察し、理解。	
第9回	学生による発表（1）	指定された字数で、自らの経験を踏まえて自らの特別活動または総合的な学習の授業計画を作成して発表。	学生の発表に対する学生・教員の質問・意見
第10回	学生による発表（2）	（1）の続き	同上
第11回	学生による発表（3）	（2）の続き	同上
第12回	学生による発表（4）	（3）の続き	同上
第13回	学生による発表（5）	（4）の続き	同上
第14回	学生による発表（6）	（5）の続き	同上
第15回	まとめ	教員から気付いた点について	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）								
	学生が「何故、自身の特別活動や学級活動が強い思い出となったか」を発表し、討論する。							

評価方法及び評価基準	授業における発表は原稿用紙2枚分だが、提出のレポートは原稿用紙4枚分（100%）
課題等	講義は、小学校・中学校・高校時代の経験を思い出しながら聞いて下さい。
事前事後学修	日頃から、教育問題に関心を持ち、できれば新聞から、でなければ、テレビ、パソコン、スマホから教育問題について見たり、読んだりして下さい。
教材教科書参考書	なし。
留意点	

科目名	社会科・地歴科教育法Ａ	科目コード	W61015	単位数 時　間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
		科目ナンバリング	T-TLS03-00.NO		30時間				

区分	教職科目(中一種) 教職科目(高一種【地歴】)	必修	担当者名	石戸谷　繁 (実務経験のある教員)	授業 形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 はじめに社会科教育の意義、成立と展開を学ぶ。そのうえで学習指導要領の改訂に関して、その趣旨とともに中学校社会科・高校地理歴史科の目標と内容を理解する。後半は、地理的分野の学習の主要テーマに関して、授業作りの観点から具体的な指導と教材化の方法を学ぶ。また、地元弘前をフィールドとして地域探究学習を行う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマシーポリシーの２および３に関連し、カリキュラムポリシーの１に関連している。
到達目標	①社会科の意義・成立と展開、学習指導要領に関する改訂の趣旨、中学校社会科・高校地歴科の目標と内容について学ぶ。 ②地理科目の主要テーマに関して、生徒に興味関心と思考力を育む授業つくりの実践的指導力を身につける。 ③地元弘前をフィールドとして探究的な学習の指導力を身につける。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	社会科とは何か(1)	社会科教育の本質：社会科教育とは何かについて考え、参加者は自分の考えを発表する。	ディスカッション
第2回	〃　(2)	社会科の成立と展開①：戦前の社会科的教育の歴史：明治から昭和前半までの歴史の展開を踏まえながら、その特色を考える。	
第3回	〃　(3)	社会科の成立と展開②　戦後の社会科教育の歴史：戦後の歴史の展開・社会の変遷と結びつけながら、その特色を考える。	
第4回	〃　(4)	学習指導要領の改訂①　学習指導要領のめざすもの：学習指導要領の概要を理解する。	
第5回	〃　(5)	学習指導要領の改訂②　社会科の教育課程（小・中・高）、社会科改善の基本方針：学習指導要領社会科・地歴科の概要を理解する。	
第6回	〃　(6)	中学校社会科の目標と内容、高等学校地歴科の目標と内容①：目標と内容について理解する。	
第7回	〃　(7)	高等学校地歴科の目標と内容②：目標と内容について理解する。	
第8回	地理の授業づくり(1)	興味関心・思考力を育む指導①　地図と地理情報システムについて：教科書・地図・スマホを活用し、具体的な指導方法を考える。	
第9回	〃　(2)	〃　②　生活文化の多様性：教科書を活用し、具体的な指導方法を考える。	
第10回	〃　(3)	〃　③　ＳＤＧｓについて：教科書を活用し、具体的な指導方法を考える。	
第11回	地域探究(1)	地域探究①　地域探究の方法：探究方法を理解する。	
第12回	〃　(2)	〃　②　巡検：地域を地理的・歴史的観点から捉える。	フィールドワーク
第13回	〃　(3)	〃　③　探究課題の設定、計画立案：探究課題を決定し、探究計画を作成する。	
第14回	〃　(4)	〃　④　分析　調べたことを分析しまとめる	
第15回	〃　(5)	〃　⑤　発表　まとめたものを発表する	プレゼンテーション

授業方法(ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ、ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞ等)	第１回　ディスカッション、第１２回　地理巡検（フィールドワーク）、第１５回　発表（プレゼンテーション）
評価方法及び評価基準	地域探究の発表報告（４０点）、レポート（３０点）、授業参加（３０点）をもとに総合的に評価する。
課題等	地域探究などのレポート
事前事後学修	地域探究の準備、配付資料による授業内容の復習を事前・事後学修とします。
教材 教科書 参考書	『中学校学習指導要領解説　社会編』東洋館出版社　ISBN　978-4-491-03471-3 『高等学校学習指導要領解説　地理歴史編』東洋館出版社　ISBN　B978-4-491-03641-0 『高等学校　新地理総合』帝国書院　ISBN　978-4-8071-6535-3
留意点	タイムリーな世の中の出来事を授業に活用することもあるので、授業の順番を入れ替えることがある。

科目名	社会科・地歴科教育法Ｂ	科目コード	W61016	単位数 時　間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
		科目ナンバリング	T-TLS03-01.NO		30時間				
区分	教職科目(中一種) 教職科目(高一種【地歴】)	必修	担当者名	石戸谷　繁 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 前半は、前期の社会科・地歴科教育法Aにおける社会科の理論と学習指導要領の学習を踏まえたうえで、歴史的分野の学習の主要テーマに関して、授業作りの観点から具体的な指導と教材化の方法を学ぶ。後半は、参加者各自が興味関心をもつ単元に関して、学習指導案を作成して模擬授業を行い、参加者で授業検討を行う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマシーポリシーの２および３に関連し、カリキュラムポリシーの１に関連している。
到達目標	①地理・歴史科目の主要テーマに関して、生徒に興味関心と思考力を育む授業つくりの実践的指導力を身につける。 ②学習指導案を作成し、模擬授業を経験することにより、実践的指導力を身につける。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	地理の授業づくり(4)	興味関心・思考力を育む指導④　自然災害と防災について：教科書を活用し、具体的な指導方法を考える。	
第2回	〃　(5)	〃　⑤　地域の教材化：教科書を活用し、具体的な指導方法を考える。	
第3回	歴史の授業づくり(1)	歴史学習の意味と方法：歴史学と歴史教育の点から理解する。	
第4回	〃　(2)	興味関心・思考力を育む指導①　時代の取り扱い①：時間の認識について理解する。	
第5回	〃　(3)	〃　②　時代の取り扱い②：時代区分について理解する。	
第6回	〃　(4)	〃　③　歴史の特質と資料①：多様な資料を用いて具体的に理解する。	
第7回	〃　(5)	〃　④　歴史の特質と資料②：多様な資料を用いて具体的に理解する。	
第8回	〃　(6)	〃　⑤　探究の方法:課題探究の方法について理解する。	
第9回	〃　(7)	〃　⑥　中学校歴史「富国強兵と文明開化」：地域の視点からの教材化を考える。	
第10回	〃　(8)	〃　⑦　中学校歴史「日露戦争」：地域の視点からの教材化を考える。	
第11回	〃　(9)	〃　⑧　中学校歴史「第二次世界大戦と日本」：地域の視点からの教材化を考える。	
第12回	〃　(10)	〃　⑨　地域の文化施設の活用：実際に博物館を見学し、地域の歴史を理解し教材化を考える。	フィールドワーク
第13回	学習指導の計画・実施・評価(1)	学習指導案の作成：指導案について理解し、作成の方法を学ぶ。	
第14回	〃　(2)	指導案の作成：中学校教科書をもとに、指導案を作成する。	
第15回	〃　(3)	模擬授業の実施と協議	模擬授業・ディスカッション

授業方法(ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ､ｱｸﾃｨﾌﾞ･ﾗｰﾆﾝｸﾞ等)	第１２回　フィールドワーク、第１５回　発表（模擬授業）・ディスカッション
評価方法及び評価基準	模擬授業・指導案（４０点）、レポート（３０点）、授業参加（３０点）をもとに総合的に評価する。
課題等	学習指導案・レポートの提出
事前事後学修	模擬授業の準備、配付資料による授業内容の復習を事前・事後学修とします。
教材教科書参考書	『中学校学習指導要領解説　社会編』東洋館出版社　ISBN　978-4-491-03471-3 『高等学校学習指導要領解説　地理歴史編』東洋館出版社　ISBN　B978-4-491-03641-0 中学校教科書『新しい社会　歴史』東京書籍　ISBN　978-4-487-12332-2
留意点	タイムリーな世の中の出来事を授業に活用することもあるので、授業の順番を入れ替えることがある。

科目名	社会科・公民科教育法Ａ	科目コード	W61017	単位数 時　間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
		科目ナンバリング	T-TLS03-02.NO		30時間				

区分	教職科目(中一種) 教職科目(高一種【公民】)	必修	担当者名	菊地　建一 （実務経験のある教員）	授業 形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 社会科･公民科の教育課程における意義を確認し、今日に至る経緯を俯瞰しながら考察します。その後、社会科授業を巡る今日的課題を検討するとともに、学習指導要領に示された目標･内容構成を確認し、その上で、学習指導案の作成および模擬授業に取り組んでいきます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2,4-1,4-2,5-1,5-2,5-3に関連している。
到達目標	・中学校社会科および高等学校公民科の歴史的展開と理念、内容構成について理解できる。 ・望ましい授業のあり方について自らの考えを深め、指導計画を立案することができる。 ・アクティブラーニング等の方法について学び、授業に取り入れ、生徒の学びが深化するよう、計画、実施できる。 ・社会事象に興味関心を持ち、様々な事象を教材として関連付け、幅広い教材研究ができる。 ・理想の授業、理想の教師像をイメージし、それに近づける努力ができる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	オリエンテーション	授業全体の流れを概観しつつ、到達目標を確認する。	講義 グループワーク
第2回	教育課程上の社会科・公民科の位置	小・中・高全体の教育課程における社会科および公民科の位置づけを把握し、理想の授業・教師像について考察する。	講義 グループワーク
第3回	社会科の歴史と位置づけ	社会科の成立、初期社会科における経験主義的立場から系統主義立場への転換、高校社会科の解体と公民科が成立について考察する。	講義 グループワーク
第4回	社会科・公民科の今日的課題	社会科･公民科が直面する課題と21世紀型学力と社会科・公民科教育の方向性についてについて考察する。	講義 グループワーク
第5回	オンライン授業の現状と課題	非常時における、オンライン授業のあり方について考察する。 特にICTを活用しながら、オンライン授業の課題を理解する。	講義 グループワーク
第6回	中学校社会科の目標と内容構成	実践事例を参考にしながら、中学校社会科における目標と内容の構成原理について理解する。	講義 グループワーク
第7回	高校公民科の目標と内容構成（１）	新科目「公共」について、成立の背景、その目標と内容の構成原理について理解する。	講義 グループワーク
第8回	高校公民科の目標と内容構成（２）	「政経」「倫理」について、その目標と内容の構成原理について理解する。	講義 グループワーク
第9回	学習指導案の様式と書き方	具体的な学習指導案をもとに単元指導案と本時指導案の書き方について学ぶ。	講義･演習 グループワーク
第10回	学習指導案の作成２	前時の学習をもとに、具体的な学習指導案の作成に取り組む。	講義･演習 グループワーク
第11回	学習指導案の作成３	単元指導計画をもとに、単元指導案の作成を試みる。	講義･演習 グループワーク
第12回	学習指導案の作成４	単元指導計画を立案し、単元指導案の作成を試みる。	プレゼンテーション
第13回	学習指導案の作成５	単元指導･本時指導に向けての教材研究を試み、様々な教材の活用を習得する。	講義･演習 グループワーク
第14回	学習指導案と模擬授業　１	単元指導･本時指導に向けての教材研究の深め方について理解し、教材研究を試みる。ICTを活用し、指導案の発表を行う。	プレゼンテーション
第15回	学習指導案と模擬授業　２	講義全体を振り返り、学習指導案をもとに模擬授業を行う。	プレゼンテーション

授業方法(ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ､ｱｸﾃｨﾌﾞ･ﾗｰﾆﾝｸﾞ等)	グループワーク	発表、ポスター作成	リフレクションシート					
	第1回から第８回まではＧＷ中心で学習し第９回から第１３回までは発表を中心とし、第１４回から第１５回は模擬授業を実施							

評価方法及び評価基準	①平常点〔リフレクションシート含む〕（20%）、②演習およびレポート（50%）、③学習指導案（30%）によって総合的に評価します。②は社会科・公民科教育についての基本的な事項について理解、および望ましい授業のあり方について自らの考えが構築できているかを基準に評価します。③は学習指導案の体裁が整えられ、授業内容を理解し工夫されているのかを中心に評価します。試験はレポートを提出してもらいます。
課題等	毎時間リフレクションシートを記入し、次回の講義は記述内容も踏まえて進めます。
事前事後学修	事前事後学習（課題など）には約３時間程度要します。また、社会科・公民科の授業では時事的な問題が取り上げられることがあります。日頃から意識して、新聞やニュースで時事問題に触れるようにしてください。また、講義内で関心を持った新聞記事・ニュースについてのコメントをしつつ、教材化する場合の留意点を考えてもらいます。
教材 教科書 参考書	【教科書】　「公民科教育と学校教育」　梅野正信　他　　三恵社　2021年　978-4-86693-367-2 【資　料】　文部科学省　「中学校学習指導要領解説社会編」（平成29年度告示）　978-4491034713 【資　料】　文部科学省　「高等学校学習指導要領解説公民科編」（平成30年度告示）978-4487286331
留意点	１　演習を中心に、実践的な講義です。模擬授業の課題もあります。 ２　社会の問題を自分事として考え、学びにとどまらず、自らの行動変容も求めます。 ３　講義への積極的な参加を期待します。

科目名	社会科・公民科教育法Ｂ	科目コード	W61018	単位数 時　間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
		科目ナンバリング	T-TLS03-03.NO		30時間				

区分	教職科目(中一種) 教職科目(高一種【公民】)	必修	担当者名	菊地　建一 （実務経験のある教員）	授業 形態	講義	単独

授業の概要等

〔授業の主旨〕

社会科・公民科の授業分析を通じて、授業の構成要素と指導のポイントについて理解を深めていきます。また、「導入」、「展開」、「思考場面・資料操作場面」を各自で構想・展開する演習を行います。その中で、それぞれの特性と課題を把握した上で、模擬授業を中心に分析していきます。

〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕

ディプロマポリシーの2,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2,4-1,4-2,5-1,5-2,5-3に関連している。

到達目標

・中学校社会科および高等学校公民科の授業・内容構成について理解を深める。
・望ましい授業のあり方について自らの考えを深め、指導計画を立案し実践できる。
・ICT教材やアクティブラーニングの方法について学び、授業に取り入れ、活発な学習活動を作り出せる。
・社会事象に興味関心を持ち、様々な事象を「自分事」として考え、受け止めることが出来る。
・理想の授業、理想の教師像をイメージ、それに近づける努力が出来る。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	学習指導と授業分析	授業全体の流れを概観しつつ、到達目標を確認する。 導入、展開、まとめの構築について考察する。	講義・演習
第2回	社会科・公民科の授業分析	実践記録をもとに中学校社会科および高校公民科の授業分析を試みる。	講義・演習
第3回	社会科授業の構成要素	前時の授業分析を踏まえて、社会科・公民科の授業における構成要素について考察する。	講義・演習
第4回	授業の「導入」の構成	授業構成要素のうち、導入について検討し、実際に導入場面の作成を試みる。 特に「発問」による導入の例を考える。	グループワーク ディスカッション
第5回	授業の「展開」の構成	前時に作成した導入を模擬授業の形式で実際に行ってみる。 また、展開の構成を踏まえ模擬授業の例を考える。	グループワーク 模擬授業
第6回	「立法権」をテーマに授業を構想する	立法権をテーマに展開について検討し、実際に模擬授業を試みる。	グループワーク 模擬授業
第7回	「行政権」「司法権」をテーマに	模擬授業の形式で実際に行ってみる。特に生徒相互によるアクティブラーニングの形式で取り組む。	アクティブ ラーニング
第8回	「地方自治」をテーマに	模擬授業をおこない、各場面での指導方法について考察する。	グループワーク ディスカッション
第9回	「国際社会」をテーマに	受講者同士で模擬授業を行い、資料活用の重要性、またその効果について考察する。	グループワーク 模擬授業
第10回	「国際連合」をテーマに	受講者による模擬授業を行い、受講者全員で省察検討会を行う。特に視聴覚教材を活用した授業に取り組み、その効果を理解する。	グループワーク 視聴覚教材活用
第11回	「経済の循環と企業」をテーマに	受講者による模擬授業を行い、受講者全員で省察検討会を行う。特に自作教材をフルに活用した授業に取り組み、その効果を理解する。	グループワーク ICT活用
第12回	「財政の役割」をテーマに	受講者による模擬授業を行い、受講者全員で省察検討会を行う。特にディベートを取り入れた授業に取り組み、その効果を理解する。	グループワーク ディベート
第13回	「金融」をテーマに	受講者による模擬授業を行い、受講者全員で省察検討会を行う。特にアクティブラーニングの授業に取り組み、その効果を理解する。	アクティブ ラーニング
第14回	「労働基本権」をテーマに	受講者による模擬授業を行い、受講者全員で省察検討会を行う。特に大学入試（共通テスト）を意識した授業のあり方を学ぶ。	グループワーク ディスカッション
第15回	まとめ	講義全体を振り返り、社会科・公民科授業の在り方について考察を深める。また、理想の授業、教師像について考察する。	グループワーク ディスカッション

授業方法(オンデマンド、アクティブ・ラーニング等)

ＰＢＬ（問題解決型学習）	グループワーク	発表、ポスター作成	リフレクションシート				

第1回から第5回まではPBLとＧＷ中心で第６から第15回までは模擬授業中心に取り組みます。

評価方法及び評価基準

①平常点〔リフレクションシート含む〕（20%）、②模擬授業および討論（50%）、③学習指導案（30%）によって総合的に評価します。②は「導入」「展開」「思考・資料操作場面」「まとめ」についての演習および模擬授業を通じて、指導内容と指導技術の観点から評価します。③は演習や模擬授業を通じて発見した課題を修正し、より効果的な指導の行える指導案を作成することができているのかを中心に評価します。試験はレポート提出となります。

課題等

「導入」、「展開」、「まとめ」についての演習、及び模擬授業についてはリフレクションシートに記入してもらいます。記述内容については次回の講義でコメントし受講者全体で共有します。

事前事後学修

事前事後学習（課題など）には約３時間程度要します。「導入」、「展開」、「まとめ」についての演習、及び模擬授業の準備は授業時間内では足りないため、各自で十分に準備し授業に臨むようにしてください。

教材教科書参考書

【教科書】　「公民科教育と学校教育」　梅野正信　他　　三恵社　2021年　978-4-86693-367-2
【資　料】　文部科学省　「中学校学習指導要領解説社会編」（平成29年度告示）　978-4491034713
【資　料】　文部科学省　「高等学校学習指導要領解説公民科編」（平成30年度告示）978-4487286331

留意点

１　演習を中心に、実践的な授業です。模擬授業の課題も多くあります。
２　社会の問題を自分事として考え、学びにとどまらず、教材化した場合の扱い方を考察してもらいます。
３　講義への積極的な参加を期待します。

科目名	教育の方法と技術【2021年度以前入学生】/教育の方法と技術(ICT活用を含む)【2022年度以降入学生】	科目コード	W61030/W61022	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	後期
		科目ナンバリング	T-TLSP2-02.NK						
区分	教職科目	必修	担当者名	佐藤　萬昭 (実務経験のある教員)			授業形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 ・これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法の理論や授業における指導技術を学ぶ。 ・ICTを教育現場における児童生徒への指導にどのように活用するのかについて理解を深める。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。
到達目標	・これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解できる。 ・教育現場におけるICTの活用意義や理論について理解できる。 ・ICTを活用した学習指導や校務の実際とICTの環境整備について理解できる。 ・教育データの活用や教育情報セキュリティの重要性について理解できる。 ・情報活用能力を育成する意義および育成方法を身に付ける。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス	・本科目の概要（科目の意義・目標、授業の進め方、評価の方法） ・現代社会におけるICTの役割	ICTの活用
第2回	教育の現代化と教授理論	・教授法の変遷 ・問題解決学習、プログラム学習及び発見学習の概要	ICTの活用
第3回	情報や知識を提示・伝達する方法と技術	・講義の概要と留意点 ・教科用図書の使い方 ・板書・レジュメ・参考資料の活用方法	ICTの活用
第4回	学習意欲を引き出す工夫と授業技術	・発問の種類と意義 ・調べ学習と話し合い学習の概要と留意点 ・教授組織や学習組織の諸形態	ICTの活用
第5回	学習活動を評価する方法と技術	・成績評価の意義と目的 ・客観的評価と主観的評価の概要と留意点	ICTの活用
第6回	教育現場におけるICTの役割と導入	・教育現場におけるICTの活用意義 ・学校におけるICTの環境整備 ・外部との連携のあり方	ICTの活用
第7回	デジタルコンテンツの活用	・デジタルコンテンツの概要 ・デジタルコンテンツの特性と活用方法	ICTの活用
第8回	電子黒板の活用	・ICTの活用方法や活用場面 ・電子黒板の機能と活用方法	ICTの活用
第9回	デジタル教科書の活用	・デジタル教科書導入の背景 ・デジタル教科書の効果と活用方法	ICTの活用 Webの活用
第10回	特別支援教育におけるICTの活用	・ICT活用のメリットとデメリット ・ICTの活用推進における留意点	ICTの活用
第11回	遠隔教育におけるICTの活用	・オンライン授業の方法（同時配信授業、オンデマンド授業など） ・遠隔授業の方法（遠隔交流授業、遠隔合同授業など） ・遠隔教育の接続形態の概要	ICTの活用
第12回	教育ICTの活用事例	・各校種における教育ICTの活用事例 ・中学校英語教育における電子黒板とデジタル教科書の活用事例	ICTの活用
第13回	情報モラル教育	・情報モラル教育の意義と進め方 ・情報モラル教育における教材の活用	ICTの活用
第14回	校務の情報化とデータの活用	・ICTの校務への活用 ・学習指導や学習評価における教育データの活用 ・教育情報セキュリティの重要性	ICTの活用
第15回	まとめ	・本科目の内容の振り返り	ICTの活用

授業方法(ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ、ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞ等)	まとめアクティビティ	リフレクションシート	授業中のノート取り	クイズ、小テスト				

評価方法及び評価基準	平常点評価（40%）及び試験の結果（60%）を総合的に勘案して評価する。評価に際しては、主体的に講義に参加しているか、講義で学んだ知識を確実に自らのものとすることで論理的かつ明晰な文章で記述できるか、の２点を重点的に評価する。
課題等	オンライン授業アプリにより適宜指示する。レポート課題はオンライン授業アプリにより提出する。
事前事後学修	２単位科目では週当たり３時間の授業外の学修内容が必要である。事前に配付された資料を踏まえて、授業内容について把握すること。授業で示された知識・技能や課題・問題について整理し、解決に努めること。
教材教科書参考書	【教科書】使用しない。適宜プリントを配布及びオンライン授業アプリで提示する。 【参考書】文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説　総則篇』978-4827815801
留意点	質問等はオンライン授業アプリによる双方的な形態を採用する。日頃から教育のICT化に関わる様々な問題に関心を寄せ、自分なりの考えを持つように努める。

科目名	教育課程とカリキュラム・マネジメント	科目コード	W61021	単位数 時　間	2単位	対象学年	2年	開講学期	後期
		科目ナンバリング	T-TLFU2-06.NK		30時間				

区分	教職科目	必修	担当者名	奥野　武志	授業形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 本授業では、学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義について担当教員が講義を行った後、受講者がグループに分かれて意見交換を行い、代表者が前に出てどのような意見が出たかを発表する。さらに各自が気づいたことを文章化することを通して、教育課程についての理解を深めていくことを目指す。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。
到達目標	1) 教育課程・カリキュラムの概念と意義について説明できる。 2) 教育課程編成の基本原理にもとづく編成方法について説明できる。 3) 教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握しマネジメントすることの意義について説明できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス	・本授業の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明	
第2回	教育課程とカリキュラム	・教育課程・カリキュラムの概念を理解し、今まで受けてきた学校教育について考察する。	
第3回	カリキュラムの類型論	・カリキュラムの諸類型の概念を理解し、それぞれの特徴について考察する。	
第4回	学習指導要領と教科書	・学習指導要領と教科書の法的位置づけを理解し、学校教育における位置づけについて考察する。	
第5回	学習指導要領の変遷（1）	・1947年の作成後、1951年に改訂された学習指導要領の特徴を理解し、現代の教育と対比して考察する。	
第6回	学習指導要領の変遷（2）	・1958年の官報告示後、1989年改訂に至るまでの学習指導要領の変遷について理解し、現代の教育と対比して考察する。	
第7回	学習指導要領の変遷（3）	・1998・1999年改訂から現在至るまでの学習指導要領の変遷について理解し、その課題について考察する。	
第8回	総合的な学習の時間の成果と課題	・総合的な学習の時間の実例について、その成果と課題について考察する。	
第9回	カリキュラムマネジメントの概念	・カリキュラムマネジメントの概念を、その歴史的背景とともに理解し、その特徴について考察する。	
第10回	カリキュラム・マネジメントの実例（1）	・中学校におけるカリキュラムマネジメントの実例について、その意義と課題について考察する。	
第11回	カリキュラム・マネジメントの実例（2）	・高等学校におけるカリキュラムマネジメントの実例について、その意義と課題について考察する。	
第12回	高等学校の多様な教育課程	・高等学校の多様な教育課程の実態を理解し、その意義と課題について考察する。	
第13回	教育課程の特例（1）	・教育課程特例校・授業時数特例校・研究開発学校の各制度について理解し、その意義と課題について考察する。	
第14回	教育課程の特例（2）	・学びの多様化校制度について理解し、その意義と課題について考察する。	
第15回	まとめ	・授業全体の総括	

授業方法(ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ、ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞ等)	グループワーク	発表、ポスター作成	誘導ディスカッション	まとめアクティビティ	リフレクションシート			

評価方法及び評価基準	評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。 ・授業への取り組み（グループワーク、振り返り）：50% ・まとめレポート　：50%
課題等	・教師は毎回の授業でグループ発表に対してコメントする。 ・振り返りはteamsを通じて提出する。
事前事後学修	・事前学修：日頃から教育に関するニュースに親しみ、何が問題となっているか把握しておく。 ・事後学修：授業を通じて浮かんだ疑問について調べる。事前事後合わせて3時間程度の学修を想定している。
教材教科書参考書	・教科書は特に指定しない。毎回授業レジュメを配布し、参考書等を適宜紹介する。
留意点	・授業計画はあくまで予定である。参加学生の興味関心等に応じて授業内容が変わることがある。

科目名	アクティブ・ラーニングの理論と実践	科目コード	W61020	単位数 時間	2単位	対象学年	2年	開講学期	前期
		科目ナンバリング	T-TLSP2-04.NK		30時間				

区分	教職科目	必修	担当者名	奥野　武志	授業形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 講義とディスカッションを通してアクティブ・ラーニングの理論を身につけた上で、模擬授業を行う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。
到達目標	1) アクティブ・ラーニングとは何かについて説明できる。 2) アクティブ・ラーニングの観点にもとづく授業を実践できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	ガイダンス	・本授業の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明	
第2回	アクティブ・ラーニングとは何か（1）	・授業改革からアクティブ・ラーニングへ（教科書第1章）	
第3回	アクティブ・ラーニングとは何か（2）	・アクティブ・ラーニングへの移行（教科書第2章）	
第4回	事例検討	・事例1～4（教科書第3章）	
第5回	アクティブ・ラーニングの実践（1）	・共有財産としての参加型アクティビティ（教科書第4章）	
第6回	アクティブ・ラーニングの実践（2）	・アクティブラーニングが定着する条件（教科書第5章）	
第7回	授業案の構想	・指導案の相互検討	
第8回	模擬授業	・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント	
第9回	模擬授業	・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント	
第10回	模擬授業	・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント	
第11回	模擬授業	・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント	
第12回	模擬授業	・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント	
第13回	模擬授業	・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント	
第14回	模擬授業	・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント	
第15回	まとめ	・授業全体の総括	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	実習、フィールドワーク	グループワーク	発表、ポスター作成	誘導ディスカッション	まとめアクティビティ	リフレクションシート		

評価方法及び評価基準	評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。 ・授業への取り組み（グループワーク、振り返り）　50% ・模擬授業（指導案含む）　50%
課題等	・教師は毎回の授業でグループ発表や模擬授業に対してコメントする。 ・振り返りはオンラインteamsを通じて提出する。
事前事後学修	・事前学修：日頃から教育に関するニュースに親しみ、何が問題となっているか把握しておく。 ・事後学修：授業を通じて浮かんだ疑問について調べる。事前事後合わせて3時間程度の学修を想定している。
教材教科書参考書	・教科書 渡部淳『アクティブ・ラーニングとは何か』岩波新書、2020年。（ISBN:978-4004318231）
留意点	・授業計画はあくまで予定である。受講学生数等に応じて授業内容が変わることがある。

科目名	生徒指導論・進路指導論(キャリア教育の理論及び方法を含む)	科目コード	W61029	単位数 時　間	2単位	対象学年	2年	開講学期	後期
		科目ナンバリング	T-TLSP2-05.NK		30時間				

区分	教職科目	必修	担当者名	西東　克介	授業形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 特に中学校・高校は、一般的に管理型の生徒指導を行ってきた。致し方の内面もあるが、これからの生徒指導は、教員には見えにくい生徒の能力を引き出す努力が重要である。そのためには何が必要なのかを学生と共に考えていきます。
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2,4-1,4-2,5-1,5-2,5-3に関連している。
到達目標	生徒から教員は何度も嫌な思いをさせられるが、それでも生徒から学ぼうという姿勢を忘れてはいけません。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	本講義の概要・展開方法・試験等の説明	8年間の私立女子高校の経験と政治学・行政学・教育学視点で説明し、理解。	
第2回	生徒個人としての課題とあいさつ（1）	夢あるいは具体的目標を持ち、このことを強く信じて生きていくことが自分を律し、そして能力を高めていきます。その基本があいさつであることを理解。	進路キャリア1ー1・2．3
第3回	進路と職業（キャリア教育）（2）	教員は、様々な職業についてその長所・短所をホームルーム等で少しずつ話していく。生徒が興味を持つきっかけを与えることで教員自身も学んでいくこと。	進路・キャリア2ー1・2
第4回	キャリア教育と学習（3）	いわゆる学習も極めて重要だが、部活動や趣味友人関係においてコツコツと努力する習慣を身につけていくことも重要であることを生徒に常々伝えていきます。	進路キャリア3ー1／2
第5回	いじめのおきる背景	いじめのおきる背景を時代の違いにより特徴があることを理解。	生徒指導1ー1ー・2
第6回	いじめの社会学的分析	いじめ問題は当事者のみならず、第3者が介入して強められることが多いことを理解。	生徒指導3ー1
第7回	西東の経験したいじめへの対応	高校の教員時代、人権教育の責任者と生徒指導部のメンバーだったことから、あるいじめ問題への対応責任者関わったこと。その時の過程と配慮すべきことの理解。	生徒指導3ー2
第8回	いじめ問題への個人として理解したことと、どのように対応すべきかについてワークショップ	初めの30分でいじめ問題への自分なりの理解を文章にまとめ、次の30分で教員になったとき、どのように対応すべきかについてワークショップを行い、最後にすべてのグループが発表。	生徒指導3ー1・2・3
第9回	性の問題と人権	生徒の性に関する知識や一般に外部情報や友人からの情報に影響を受けやすい。そうした情報に歪められない基本的な情報の理解。	生徒指導1ー3
第10回	掃除と生活態度	掃除は、教員も生徒と一緒に行うことが重要。そのことを私も高校の教員時代に数年かけて理解ができたことを学生に伝える。	生徒指導1ー3
第11回	教員相互の指導体制の課題（1）ホームルームと担任	学校の基盤は学級である。担任と生徒の地道なホームルームづくりによって、学級は形成されていきます。その際の担任の基本的考え方や行動についての理解。	生徒指導2ー1ー・2
第12回	（2）担任と学年会議	学年は担任・副担任にとって学級を形成していく重要な補助組織。他学級の担任・副担任からの情報により、担当する学級の形成を考えていく。	生徒指導2ー2ー・3
第13回	人権への配慮と生徒指導部	生徒指導部の活動は、学校の膣錠形成に寄与する活動である。その際、対象となる生徒生徒への人権配慮を常に心がけることをを理解。	生徒指導3ー2ー・3
第14回	「プロフェッショナル」としての教員の資質をどのようにのばすのか	5人ずつぐらいに分かれて、ワークショップを行います。30分まえに終了して発表を行います。	生徒指導1ー4，3ー2・3
第15回	まとめと試験	まとめと試験	生徒指導3ー2・3

授業方法(ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ、ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞ等)								
	いじめ問題について、自身の経験と問題全体の改善案についてグループ討議を行う。							

評価方法及び評価基準	第8回と14回にワークショップを行い、記録を取る（20%）。試験（80%）
課題等	自らの中学校・高校時代を思い出しながら、この授業で学んだことと比較しながら考えていく。
事前事後学修	できれば、新聞で、でなければ、テレビ、パソコン、スマホなどで、教育問題のニュースを見たり、読んだりして下さい。
教材教科書参考書	教科書はありません。
留意点	

科目名	学校カウンセリング（教育相談を含む）	科目コード	W61012	単位数	2単位	対象学年	2年	開講学期	前期
		科目ナンバリング	T-TLSP2-06.NK	時　間	30時間				

区分	教職科目	必修	担当者名	新川　広樹	授業形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 本講義では、教育相談に関わる理論および諸技法を学び、学校におけるカウンセリングマインドの有用性について理解を深め、対人援助職としての基本的態度を養うことを目的とする。
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2,4-1,4-2,5-1,5-2,5-3に関連している。
到達目標	１．教育相談に関わる理論および諸技法について説明できる ２．学校における教師ー生徒関係を理解し、相談場面において適切な応答を選択できる ３．自己のコミュニケーションの特長と課題を客観視し、必要に応じて制御できる

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	オリエンテーション	教育相談の意義と課題を概説するとともに、授業の進め方について案内する。	
第2回	カウンセリングの基礎的知識	カウンセリングの理念および対人支援職としての倫理について解説する。	
第3回	カウンセリングの構造	カウンセリングの基本姿勢や相談しやすい対人的距離・環境づくりについて解説する。	
第4回	カウンセリングの諸技法	ロジャースの人間性心理学を中心としたカウンセリングの基本的技法について解説する。	
第5回	児童生徒のこころの理解	関連する心理学領域におけるさまざまな学校不適応のモデルについて概観する。	
第6回	心理アセスメントの方法	質問紙法や心理検査の活用方法および結果の解釈方法について解説する。	
第7回	情緒的問題に関する教育相談の実際	情緒的問題（抑うつやストレス反応を含む）の援助事例について紹介する。	
第8回	友人関係に関する教育相談の実際	友人関係の問題（いじめ・攻撃的行動を含む）の援助事例について紹介する。	
第9回	不登校に関する教育相談の実際	不登校（不安症やゲーム依存を含む）の援助事例について紹介する。	
第10回	学業不振に関する教育相談の実際	学業のつまずきに対する学習方略や動機づけ面接を用いた援助事例について紹介する。	
第11回	発達障害に関する教育相談の実際	問題行動を理解する枠組みや合理的配慮の視点に基づく援助事例について紹介する。	
第12回	家庭環境に関する教育相談の実際	保護者支援や虐待等に関する外部機関との連携について紹介する。	
第13回	予防的・開発的教育相談	すべての児童生徒を対象とする心理教育的援助サービスについて紹介する。	オンデマンド配信
第14回	相談体制の整備と学校危機介入	校内におけるネットワーク構築や緊急支援時の対応について解説する。	オンデマンド配信
第15回	コミュニティ・アプローチの実践事例	コミュニティ・アプローチの発想と多様な実践事例について紹介する。	オンデマンド配信

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	ロールプレイング	ペアワーク						
	一部、Teams上でオンデマンド配信となる見込みです。							

評価方法及び評価基準	○授業・グループワークへの参加状況20%、小レポート80%の割合で評価する。 ・授業・グループワークへの参加：授業中の質疑応答の様子や面接技法の演習に関する参加状況（発言・態度）により評価する。 ・レポートは400字程度×4回分（第1～4回、第5～8回、第9～12回、第13～15回）の内容により評価する。
課題等	講義内容に関するコメントを400字程度で作成してください。提出期限と提出方法は授業内で示します。
事前事後学修	事前学習として、シラバスの各回の内容に関し、学校現場において何が課題となっているかについて情報を集め、イメージを膨らましておいて下さい。事後学習として、講義内容やワークを振り返り、自己のヘルピングスキルについて評価・内省を求めます。
教材教科書参考書	授業内で適宜プリントを配布します。
留意点	

科目名	地域研究(歴史)	科目コード	W63001	単位数 時　間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期
		科目ナンバリング	W-KY1-01H						
区分	教職科目 教職科目(高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	斉藤　利男			授業 形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 「地域の歴史」を柱に「全国」の視点も加えて具体的なテーマを選択し、テキストの講読、資料の分析と、フィールドワークを組み合わせた学習を行います。ただし、テーマによってはフィールドワークができない場合もありますので、了承下さい。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2,4-1,4-2,5-1,5-2,5-3に関連している。
到達目標	テキストを読み内容を理解する能力、資料を分析する能力を高めるとともに、歴史的な思考力と、これらを総合しテーマを深めてゆく力量を、身につける。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	テーマの決定とテキストの選択	「地域」と「全国」を総合するテーマを決定しテキストを選ぶ。これまで、戦国大名、織田･豊臣政権、伊能忠敬、開国、太平洋戦争、明治維新、アイヌ民族の歴史と文化、武士の登場、平成時代史をテーマにとりあげました。	演習形式
第2回	テキスト講読と資料の博捜	テキスト講読を開始し、問題を深めるための資料を探す。	演習形式
第3回	テキスト講読と資料の分析（１）	テキスト講読と資料分析を進める。不明なところは課題。	演習形式
第4回	テキスト講読と資料の分析（２）	テキスト講読と資料分析を進める。不明なところは課題。	演習形式
第5回	テキスト講読と資料の分析（３）	テキスト講読と資料分析を進める。不明なところは課題。	演習形式
第6回	テキスト講読と資料の分析（４）	テキスト講読と資料分析を進める。不明なところは課題。	演習形式
第7回	テキスト講読と資料の分析（５）	テキスト講読・資料分析を進める、フィールワーク対象を検討。	演習形式
第8回	テキスト講読と資料の分析（６）	テキスト講読・資料分析を進める、フィールワーク対象を決定。	演習形式
第9回	フィールドワーク	フィールドワーク実施	演習形式
第10回	中間発表	フィールドワークをふまえた中間発表を行う	演習形式
第11回	テキスト講読と資料の分析（７）	テキスト講読と資料分析を進める。不明なところは課題。	演習形式
第12回	テキスト講読と資料の分析（８）	テキスト講読と資料分析を進める。不明なところは課題。	演習形式
第13回	テキスト講読と資料の分析（９）	テキスト講読と資料分析を進める。不明なところは課題。	演習形式
第14回	テキスト講読と資料の分析（10）	テキスト講読を進め、これまでの課題を整理する。	演習形式
第15回	最終発表	最終発表実施	演習形式

授業方法(ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ、ｱｸﾃｨﾌﾞ･ﾗｰﾆﾝｸﾞ等)	ＰＢＬ（問題解決型学習）	ディベート	実習、フィールドワーク	理解度チェック				

評価方法及び評価基準	毎回の演習における議論の参加度に対する評価と（15回×３点＝45点,45%）、中間及び学期末における発表の評価（中間25点、25%、学期末30点、30%）を総合して、全体評価とします。
課題等	毎回の演習で出た問題を課題として、次回の演習で議論を深めるとともに、フィールドワークや発表の素材とします。
事前事後学修	あらかじめ授業で使うテキストを読んでおいて下さい。授業後は課題を確認し、次の授業に向けて考えるのが理想的です。学習時間は、あわせて９０分程度を目安にしてください。
教材教科書参考書	テキストや資料は当方でコピーし、用意します。参考書は適宜指示します。
留意点	知は力なり、そして継続も力です。授業への積極的な参加を期待します。

科目名	教職実践演習（中・高）	科目コード	W61019	単位数 時　間	2単位 30時間	対象 学年	4年	開講 学期	後期
		科目ナンバリング	T-TLPR4-01.NK						

区分	教職科目	必修	担当者名	奥野　武志・山本　尚樹・佐藤　萬昭	授業 形態	演習	オムニバス

授業の概要等	〔授業の主旨〕 教員免許状の取得に必要となる教科に関する科目，教職に関する科目等を履修し終えた段階において，これらの知識・技能を総合して，学校において生じる諸問題に対処できる力を養う。その際，それぞれの場面において特に求められる力を確認すると同時に，教員として持たなければならない知識・技能・態度等が確実に習得されているかどうかを確認し，これまで習得した知識・技能・態度等の総合化を図る。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。
到達目標	1）教職課程を通じて学んだことを言語化し、自身の今後の課題について説明できる。 2）常に成長し続けることの意義を理解して実践することができる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	オリエンテーション	・本授業の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明 ・教育原理等で学んだことと今後の課題	担当：奥野/山本
第2回	教職課程で学んだことと今後の課題①	・教育制度論等で学んだことと今後の課題	担当：奥野
第3回	教職課程で学んだことと今後の課題②	・教育心理学等で学んだことと今後の課題	
第4回	教職課程で学んだことと今後の課題③	・特別活動及び総合的な学習の時間指導法等で学んだことと今後の課題	
第5回	教職課程で学んだことと今後の課題④	・教科指導法等等で学んだこと今後の課題	
第6回	ICT授業の実際 ①	・ロイロノート活用法　基礎演習 招聘講師：長内　風太（聖愛中学高等学校教諭）	担当：奥野/山本 11月29日（土） 実施
第7回	ICT授業の実際 ②	・ロイロノート活用法　実践演習 招聘講師：長内　風太（聖愛中学高等学校教諭）	
第8回	学級経営の実際 ①	・学級開きと最初の一週間の取組について（講義、演習）	担当：佐藤 10/18（土）実施
第9回	学級経営の実際 ②	・学級開きについて構想を練る（演習、全体発表）	
第10回	生徒指導の実際 ①	・いじめへの対応について（講義、演習）	担当：佐藤 10/25（土）実施
第11回	生徒指導の実際 ②	・いじめへの対応について考える（演習、全体協議）	
第12回	教育実践上の課題①	・授業準備や教材、授業実践について検討する（演習）	担当：山本
第13回	教育実践上の課題①	・授業準備や教材、授業実践について検討する（演習）	
第14回	教育実践上の課題①	・授業準備や教材、授業実践について検討する（演習）	
第15回	総括	・これまでの活動を通じて教師にとって必要なことを各自考え発表する ・教職履修ファイル「自己評価」欄の記入	担当：奥野/山本

授業方法（ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ、ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞ等）	実習、フィールドワーク	グループワーク	発表、ポスター作成	誘導ディスカッション	まとめアクティビティ			

評価方法及び評価基準	各担当者により出される課題の達成度　100%
課題等	各担当者より適宜掲示にて指示する
事前事後学修	・事前学修：日頃から教育に関するニュースに親しみ、何が問題となっているか把握しておく。 ・事後学修：授業を通じて浮かんだ疑問について調べる。事前事後合わせて3時間程度の学修を想定している。
教材 教科書 参考書	・「教職履修ファイル」 ・各受講者の免許種に対応した学習指導要領（最新版）及び同解説（最新版）
留意点	教職課程最後の科目となる。「教職履修ファイル」を基に，これまでの教職課程の内容及び教育実習の内容をよく振り返ったうえで受講すること。なお，第6回・第7回（ロイロノート活用法）は11月29日（土）3・4限、第8回・第9回（佐藤担当）は10月18日（土）3・4限、第10回・第11回（佐藤担当）は10月25日（土）3・4限に集中講義として実施する。

科目名	教育実習(事前･事後の指導を含む)（中学）	科目コード	W61013	単位数 時　間	5単位	対象学年	4年	開講学期	通年
		科目ナンバリング	T-TLPR4-00.NK		150時間				

区分	教職科目	必修	担当者名	奥野　武志・山本　尚樹	授業形態	実習	オムニバス

授業の概要等

〔授業の主旨〕

〔キーワード：教育実習、現場体験〕

中学校や高等学校で数週間教師として実習を行う。その前後に事前指導と事後指導があり、事前指導では、過去の教育実習で生じた出来事等をもとに留意事項を確認し、模擬授業などを通じて教育実習への準備を行う。事後指導においては、実習の反省、情報交換を行いながら現代の学校教育の課題についても考察する。

〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕

ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。

到達目標

1）事前指導　教育実習を円滑に行うことができる。
2）事後指導　各自の実習体験の位置づけを俯瞰的な視野から説明できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	事前指導①	教育実習の意義と目的の確認		第16回	実習	教育実習	
第2回	事前指導②	学習指導案の検討		第17回	実習	教育実習	
第3回	事前指導③	模擬授業①		第18回	実習	教育実習	
第4回	事前指導④	模擬授業②		第19回	実習	教育実習	
第5回	事前指導⑤	模擬授業③		第20回	実習	教育実習	
第6回	実習	教育実習		第21回	実習	教育実習	
第7回	実習	教育実習		第22回	実習	教育実習	
第8回	実習	教育実習		第23回	実習	教育実習	
第9回	実習	教育実習		第24回	実習	教育実習	
第10回	実習	教育実習		第25回	実習	教育実習	
第11回	実習	教育実習		第26回	実習	教育実習	
第12回	実習	教育実習		第27回	実習	教育実習	
第13回	実習	教育実習		第28回	事後指導①	教育実習の成果と課題について議論する	
第14回	実習	教育実習		第29回	事後指導②	教育実習報告会	
第15回	実習	教育実習		第30回	事後指導③	まとめ	

授業方法(ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ、ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞ等)	実習、フィールドワーク	グループワーク	発表、ポスター作成	誘導ディスカッション				

評価方法及び評価基準

事前・事後指導における取り組みと教育実習校返送評価点を総合的に勘案して評価する。特に、教育実習に自ら主体的に取り組んでいるかどうか、実習生として相応しい見識と能力を身につけているかどうか、の2点を重点的に評価する。

課題等

授業で指示する。

事前事後学修

・事前学修：日頃から教育に関するニュースに親しみ、何が問題となっているか把握しておく。
・事後学修：授業を通じて浮かんだ疑問について調べる。事前事後合わせて3時間程度の学修を想定している。

教材教科書参考書

教育実習ファイル（事前指導初回に配布）

留意点

事前指導、事後指導に正当な理由なく欠席すると、単位を認定しないので注意すること。

科目名	教育実習(事前･事後の指導を含む)（高校）	科目コード	W61014	単位数 時　間	3単位	対象学年	4年	開講学期	通年
		科目ナンバリング	T-TLPR4-00.NK		90時間				

区分	教職科目	必修	担当者名	奥野　武志・山本　尚樹	授業形態	実習	オムニバス

授業の概要等	〔授業の主旨〕 〔キーワード：教育実習、現場体験〕 中学校や高等学校で数週間教師として実習を行う。その前後に事前指導と事後指導があり、事前指導では、過去の教育実習で生じた出来事等をもとに留意事項を確認し、模擬授業などを通じて教育実習への準備を行う。事後指導においては、実習の反省、情報交換を行いながら現代の学校教育の課題についても考察する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。
到達目標	1）事前指導　教育実習を円滑に行うことができる。 2）事後指導　各自の実習体験の位置づけを俯瞰的な視野から説明できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	事前指導①	教育実習の意義と目的の確認		第16回	実習	教育実習	
第2回	事前指導②	学習指導案の検討		第17回	実習	教育実習	
第3回	事前指導③	模擬授業①		第18回	実習	教育実習	
第4回	事前指導④	模擬授業②		第19回	実習	教育実習	
第5回	事前指導⑤	模擬授業③		第20回	実習	教育実習	
第6回	実習	教育実習		第21回	実習	教育実習	
第7回	実習	教育実習		第22回	実習	教育実習	
第8回	実習	教育実習		第23回	実習	教育実習	
第9回	実習	教育実習		第24回	実習	教育実習	
第10回	実習	教育実習		第25回	実習	教育実習	
第11回	実習	教育実習		第26回	実習	教育実習	
第12回	実習	教育実習		第27回	実習	教育実習	
第13回	実習	教育実習		第28回	事後指導①	教育実習の成果と課題について議論する	
第14回	実習	教育実習		第29回	事後指導②	教育実習報告会	
第15回	実習	教育実習		第30回	事後指導③	まとめ	

授業方法(ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ、ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞ等)	実習、フィールドワーク	グループワーク	発表、ポスター作成	誘導ディスカッション			

評価方法及び評価基準	事前・事後指導における取り組みと教育実習校返送評価点を総合的に勘案して評価する。特に、教育実習に自ら主体的に取り組んでいるかどうか、実習生として相応しい見識と能力を身につけているかどうか、の2点を重点的に評価する。
課題等	授業で指示する。
事前事後学修	・事前学修：日頃から教育に関するニュースに親しみ、何が問題となっているか把握しておく。 ・事後学修：授業を通じて浮かんだ疑問について調べる。事前事後合わせて3時間程度の学修を想定している。
教材教科書参考書	教育実習ファイル（事前指導初回に配布）
留意点	事前指導、事後指導に正当な理由なく欠席すると、単位を認定しないので注意すること。

科目名	障害者教育論	科目コード	W71001	単位数 時　間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
		科目ナンバリング	W-KYT01-01.		30時間				

区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	川村　泰弘 （実務経験のある教員）	授業 形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 障害のある幼児児童生徒の学校教育の歴史的変遷をたどるとともに、特別支援教育に関する制度的事項について基礎的な知識を身に付け、関連する課題を理解する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2,4-1,4-2,5-1,5-2,5-3に関連している。
到達目標	１　特別支援学校及び特別支援教育の歴史的変遷について説明できる。 ２　特別支援教育の理念と特別支援教育制度に関する基本的事項について説明できる。 ３　障害特性や各障害種別の教育課程について説明できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	特別支援教育の理念	・特別支援教育とインクルーシブ教育システム ・特別支援教育制度における特別支援学校が有する機能・役割	オンデマンド授業
第2回	特別支援教育の歴史	・日本及び世界における障害児教育の変遷 ・現代社会における特別支援学校の教育課題	
第3回	特別支援教育の思想	・障害のある幼児児童生徒に関わる教育の思想 ・特別支援学校や学習に関わる教育の思想	
第4回	特別支援教育に関する社会的事項	・特別支援学校を巡る指導上の課題と特別支援教育施策の動向	
第5回	特別支援教育に関する制度	・特別支援学校の目的及び教育目標と国が定めた教育課程の基準との相互関係	
第6回		・自立活動、知的障害特別支援学校の教科、重複障害者等に関する教育課程の取り扱い	
第7回	特別支援学校の経営	・特別支援学校の目的や教育目標を実現するための学校経営	
第8回		・幼児児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた学級経営	
第9回		・幼児児童生徒の社会参加を目指した学校内外の連携・協働	
第10回	視覚障害・聴覚障害教育の理解	・視覚・聴覚特別支援学校を巡る近年の状況の変化及び幼児児童生徒の生活の変化を踏まえた指導上の課題	
第11回	知的障害教育の理解	・知的障害特別支援学校を巡る近年の状況の変化及びと児童生徒の生活の変化を踏まえた指導上の課題	
第12回	肢体不自由・病弱教育の理解	・肢体不自由・病弱特別支援学校を巡る近年の状況の変化及び児童生徒の生活の変化を踏まえた指導上の課題	
第13回	重複障害教育の理解	・特別支援学校における重複障害者の現状及び児童生徒の生活の変化を踏まえた指導上の課題	
第14回	発達障害教育の理解	・学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症の理解と教育における取組	
第15回	小中高等学校における特別支援教育	・小中高等学校における特別支援教育の取組と指導上の課題	

授業方法(ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ、ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞ等)	誘導ディスカッション	グループワーク	ペアワーク	資料記入	授業中のノート取り			
	第１回目の授業はオンデマンドで行う。講義５回目開始までの間にオンラインで学習し、講義内容をレポートにまとめて提出する。							

評価方法及び評価基準	レポート（４０％）、試験（３０％）、授業への参加度（３０％）
課題等	第４回目、第９回目、第１３回目の授業後に小レポートの課題を出す。小レポートは次の講義開始時に提出する。
事前事後学修	事前：次回の授業内容のポイント、キーワード等を提示するので、関連する情報を調べておくこと。 事後：資料を見て授業を振り返り、疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。
教材教科書参考書	教科書：随時、資料を配布する。 参考書：特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領　ISBN:978-4303124243 特別支援学校高等部学習指導要領　ISBN：978-4303124274 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）　ISBN：978-4304042294 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）ISNBN:978-4304042317 特別支援学校学習指導要領解説　総則編（高等部）ISBN：978-4863715257
留意点	授業で取り扱った内容について、随時参考書を読んで理解を深めてください。

科目名	知的障害者の心理Ⅱ	科目コード	W71003	単位数 時　間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
		科目ナンバリング	W-KYT03-03.		30時間				

区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	西沢　勝則 （実務経験のある教員）	授業 形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 知的障害児・者の行動類型、パーソナリティ、社会性や対人関係、コミュニケーションなどを問題として考える。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1,2,3,4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1,2-2,3-2,4-1,4-2に関連する。
到達目標	知的障害児・者の行動特性、集団への参加と家庭生活や学校生活への適応、コミュニケーションの問題を理解し、その基礎となっている社会性や対人関係、言語能力などの発達を考慮して指導の工夫ができる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	パーソナリティと情動特性	パーソナリティ特性や情動的特性	
第2回	知的障害児の行動特徴	行動特徴、「硬さ」概念の再検討	
第3回	動機づけ	パーソナリティ及び動機づけに影響する要因	
第4回	社会性と対人関係	社会性・対人関係の基礎、共同注意、心の理論	
第5回	集団生活への参加	乳幼児期の人間的ふれあい、集団生活への参加	
第6回	自閉症児の情動理解	顔や視線への感受性、情動理解の特徴	
第7回	言語発達の基礎	言語獲得の流れ、理解と表出、	
第8回	非言語的コミュニケーション	非言語的意思表現、サイン言語による意思伝達の方法	
第9回	言語的コミュニケーション	音声知覚の発達、話し言葉・文字による意思表現の方法	
第10回	幼児期のアセスメント	活動を通したアセスメント、心理的道具としての絵本	
第11回	絵本の構造と発達順序性	母子活動と絵本の構造、物語理解の発達順序性	
第12回	言語コミュニケーションの機能	社会的相互作用、フォーマット、スクリプト	
第13回	コミュニケーションの指導	社会的文脈、ルーティン、インリアル指導、	
第14回	指導上の課題と提案	レポート作成及び発表	発表
第15回	まとめ	理解度チェックとまとめ	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	授業中のノート取り	リフレクションシート						

評価方法及び評価基準	定期試験（30%）、授業への参加度（40%）、レポート（30%） 毎回、講義内容に関する小レポートを提出することで、習得状況を確認する。
課題等	講義で取り上げた内容から、各自テーマを選びレポートすることを課題とする。
事前事後学修	講義内容に関連した具体的な事例に接する機会を設けるように努めること。
教材教科書参考書	参考書　小池敏英・北島善夫　著　知的障害の心理学―発達支援からの理解―　北大路書房　2001 ISBN978-4-7628-2215-5
留意点	小レポートは必要なコメントを付して次回講義時に返却する。

科目名	肢体不自由者の心理・生理・病理	科目コード 科目ナンバリング	W71004 W-KYT02-04.	単位数 時　間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	前期
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	西沢　勝則 （実務経験のある教員）			授業 形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 肢体不自由児・者の生理・病理について脳性まひを中心に概説し、その運動障害、行動と心理特性について触れ、学習上や生活上の困難を克服・改善するための対応について検討する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1,2,3に関連し、カリキュラムポリシーの1-1,2-2,3-2に関連する。
到達目標	肢体不自由は四肢体幹の永続的な障害をいうが、中枢神経系の障害である脳性まひ及び骨関節等の障害に関する生理・病理や行動、心理について学び、自立活動の充実など教育の在り方を考える基礎を身につける。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	オリエンテーション 肢体不自由の概念と就学措置	授業の内容と進め方の説明、肢体不自由の語源と定義、障害の特性、高木憲次	
第2回	肢体不自由教育の歴史	肢体不自由教育の歴史、今日的課題	
第3回	運動機能の発達と障害	運動機能の発達、原始反射、歩行の獲得	
第4回	肢体不自由をもたらす疾患	脳性まひの運動・動作、身体の動き	
第5回	肢体不自由をもたらす疾患	二分脊椎、関節疾患、骨形成不全、進行性疾患	
第6回	障害の理解の方法	障害の一般的理解、個人の事例としての理解	
第7回	重複障害	実態把握、重度・重複障害児、健康の保持	
第8回	重複障害児の対人相互交渉	対人相互交渉の捉え方	
第9回	重度・重複障害児	重度・重複障害児の特性、指導に必要な工夫と配慮	
第10回	肢体不自由児の自立活動	自立活動の計画、課題・内容の設定、評価の視点	
第11回	肢体不自由児の自立活動	生活上の課題、学習上の課題、ポジショニング、教材・教具	
第12回	肢体不自由児の心理	肢体不自由児の社会性、コミュニケーション、認知・思考	
第13回	肢体不自由児の心理	肢体不自由児の心理・行動上の困難、障害受容、ADL	
第14回	肢体不自由教育の課題	肢体不自由教育の課題と考え方	発表
第15回	まとめ	理解度チェックとまとめ	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	授業中のノート取り	リフレクションシート						

評価方法及び評価基準	定期試験（30%）、授業への参加度（40%）、レポート（30%） 毎回、講義内容に関する小レポートを提出することで、習得状況を確認する。
課題等	毎回の小レポートのほか、自分で選んだテーマについてレポートを提出する。
事前事後学修	各回の内容に応じて、関連する情報を各自整理すること。
教材 教科書 参考書	参考書　川間健之介　長沼俊夫　著　肢体不自由児の教育〔新訂〕放送大学教育振興会　2020 ISBN978-4-595-32171-9
留意点	小レポートは必要なコメントを付して次回講義時に返却する。

科目名	知的障害者教育論	科目コード	W71006	単位数	2単位	対象学年	2年	開講学期	前期
		科目ナンバリング	W-KYT02-06.	時　間	30時間				
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	山崎　誠悦			授業形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 特別支援学校教諭免許状取得に必要な履修科目である。知的障害教育に関する基礎的内容を解説する。知的障害特別支援学校及び知的障害特別支援学級における指導にあたり、児童生徒の心理的特性や学習上の特性、教育課程の編成、教育内容、指導方法等について解説する。知的障害のある児童生徒の自立と社会参加をめざす教育活動を進めていく上での基本的な問題について検討する。
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2,4-1,4-2,5-1,5-2,5-3に関連している。
到達目標	（１）知的障害教育の対象や就学先決定の仕組みと手続きについて理解する。 （２）知的障害のある児童生徒の心理的特性及び学習上の特性について理解する。 （３）知的障害特別支援学校及び知的障害特別支援学級における教育課程、指導内容、指導方法について理解する。 （４）知的障害教育における指導に関する基礎的・基本的事項や指導上の留意事項について理解する。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容	備考
第1回	オリエンテーション 知的障害教育の歴史（１）	各回の授業内容と進め方及び本授業の評価方法について説明する。欧米における知的障害の問題成立から知的障害教育の成立・発展過程を概観し、欧米における知的障害のある児童生徒に対する教育の変遷についての理解を深める。	講義
第2回	知的障害教育の歴史（２）	日本における知的障害教育の成立・発展過程を概観する。今日の知的障害教育の現状と課題について考察する。	講義
第3回	知的障害の定義・原因・発見	世界保健機関や米国における知的障害の定義及び分類を概説するとともに、日本における知的障害の定義について理解を深める。	講義
第4回	知的障害のある児童生徒の心理的特性	知的障害のある児童生徒の障害の程度による身体面及び運動面、知覚面、行動面等の状態像や基本的心理特性について理解を深める。	講義
第5回	就学先決定のあり方と教育の場	障害のある子どもの就学先決定の仕組みと手続きを解説し、知的障害のある児童生徒の就学先決定のあり方について理解を深める。	講義
第6回	知的障害特別支援学校における教育課程の編成	知的障害特特別支援学校の小学部・中学部・高等部の特徴的な教育課程の編成について理解を深める。	講義
第7回	知的障害教育における指導の基礎的・基本的事項	知的障害のある児童生徒個々に応じた指導・支援のあり方に関して解説する。個々の教育的ニーズに即応した指導の基礎的・基本的事項について理解を深める。	講義
第8回	知的障害教育における指導の形態 各教科等を合わせた指導（１）	知的障害特別支援学校における指導形態として日常生活の指導と遊びの指導を取り上げ、指導のねらいや指導内容、指導計画の作成、指導上の留意点について理解を深める。	講義
第9回	知的障害教育における指導の形態 各教科等を合わせた指導（２）	各教科等を合わせた指導として生活単元学習を取り上げ、指導のねらいや指導内容、指導計画、指導上の留意点について理解を深める。	講義
第10回	知的障害教育における指導の形態 各教科等を合わせた指導（３）	各教科等を合わせた指導として作業学習を取り上げ、指導のねらいや指導内容、指導計画、指導上の留意点について理解を深める。	講義
第11回	知的障害教育における指導の形態 教科別の指導	知的障害のある児童生徒の学習上の特性及び教科指導と教育課程との関連、指導上の留意点について解説する。知的障害特別支援学校における各教科の指導事例を紹介し、教科別の指導について理解を深める。	講義
第12回	知的障害教育における指導の形態 自立活動の指導	知的障害特別支援学校の自立活動の目標や指導内容、指導計画の作成と内容の取り扱いについて解説をする自立活動の指導方法・指導上の留意点について理解を深める。	講義
第13回	知的障害特別支援学級の学級経営及び指導の実際	知的障害特別支援学級の学級経営について解説する。各教科等の指導にあたり、指導計画の作成・指導上の留意点について理解を深める。	講義
第14回	交流及び共同学習	交流及び共同学習の意義や学習の形態・内容・実施計画・実施上の留意点・評価等について解説する。実践事例から交流及び共同学習の理解を深める。	講義
第15回	知的障害教育におけるキャリア教育及び進路指導	知的障害特別支学校におけるキャリア教育の意義やねらい・内容等について解説する。知的障害のある児童生徒の進路指導について、実践事例を通し理解を深める。	講義

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	事後学修課題を通して、授業内容の理解や知的障害児の理解、知的障害教育の在り方を考える。
評価方法及び評価基準	評価は、定期試験、事後学修課題、授業への参加度により総合評価（１００点，１００％）をする。 定期試験（５０点，５０％）　知的障害教育に関する基本的な内容や専門的知識、指導・支援の方途に関する修得状況について評価する。 事後学修課題（３０点，３０％）　各階における課題レポートについて、授業内容を踏まえ自分の考えを論理的に述べているかを評価する。 授業への参加度（２０点，２０％）　授業への参加度について評価する。
課題等	事前学修の課題について、調べた内容を授業内で発表をする。 事後学修としての課題レポートについて、提出後再考する点やさらに調べて理解を深める点を付し、次時に返却する。
事前事後学修	２単位科目では、週あたり３時間程度の授業外学修内容が必要である。 事前学修：事前に授業内容におけるキーワードを提示する。提示されたキーワードを調べ授業に臨む。 事後学修：授業後の課題レポート作成を通して授業内容の理解を深めるようにする。知的障害児の理解と知的障害教育の在り方を考える。
教材教科書参考書	文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）』開隆堂　978-4-304-04229-4 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）』開隆堂　978-4-304-04230-0
留意点	今日のインクルーシブ教育の構築をめざした教育の取り組みの中で、知的障害のある児童生徒個々の教育的ニーズに即応した指導・支援の基本的内容の習得に努めてください。 授業中に紹介する関連図書を調べ知的障害教育の理解を深めてください。

科目名	病弱者教育論	科目コード 科目ナンバリング	W71009 W-KYT02-09.	単位数 時　間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	後期
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	山崎　誠悦			授業 形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 特別支援学校教諭免許状取得に必要な履修科目である。病弱教育に関する基礎的内容を解説する。病弱教育の意義及び児童生徒の心理的特性や学習上の特性について解説する。病弱特別支援学校を中心に、教育課程の編成、個別の指導計画、 指導方法、指導上の留意点等指導・支援に関する基礎的・基本的事項を解説する。病弱教育対象の児童生徒の主な病気を取り上げ、児童生徒理解と教育的支援のあり方について理解を図る。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2,4-1,4-2,5-1,5-2,5-3に関連している。
到達目標	（１）病弱教育の対象となる病気と医療・教育的支援内容について理解する。 （２）病弱・身体虚弱児の心理的特性及び学習上の特性について理解する。 （３）病弱特別支援学校における教育課程、指導内容、指導方法について理解する。 （４）病弱教育における指導に関する基礎的・基本的事項や指導上の留意事項について理解する。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容	備考
第1回	オリエンテーション 病弱教育の意義	各回の授業内容と進め方及び本授業の評価方法について説明する。病弱と身体虚弱の定義について解説する。病弱教育の意義について理解を深める。	講義
第2回	病弱教育の歴史	日本における病弱教育の成立・発展過程を概観する。戦後の病弱教育に関する教育制度の整備状況を解説する。今日の病弱教育の現状と課題ついて考察する。	講義
第3回	就学先決定のあり方と教育の場	病弱教育対象の児童生徒の病気の種類の推移を概観する。就学先決定の仕組みと手続きを解説し、就学先決定のあり方について理解を深める。	講義
第4回	病弱・身体虚弱児の心理的特性	病弱・身体虚弱児に見られる悩みや不安等を取り上げ、心理・行動面の特徴的な状態像について理解を深める。発達段階から見た心理社会的問題点について考察する。	講義
第5回	病弱特別支援学校における教育課程の編成	教育課程の意義及び教育課程に関する法令や基本的な要素を解説する。病弱特別支援学校における教育課程の具体例を紹介し、教育課程の編成について理解を深める。	講義
第6回	病弱教育における各教科の指導	各教科の指導にあたり、児童生徒の学習上の特性・指導目標の設定・指導内容の精選・指導計画の作成・指導上の留意点について解説する。病弱・身体虚弱児に対する教科指導の基礎的・基本的事項について理解を深める。	講義
第7回	病弱教育における自立活動の指導	自立活動の指導にあたり、実態把握・指導目標の設定・指導内容の選定・指導計画の作成・指導上の留意点について解説する。自立活動の指導に関する基礎的・基本的事項について理解を深める。	講義
第8回	病弱教育におけるキャリア教育 及び進路指導	病弱教育におけるキャリア教育及び進路指導について解説する。病弱特別支援学校高等部における就労体験等を含む職業教育の具体的取り組み、卒業後の追指導や関係機関との連携・支援について理解を深める。	講義
第9回	白血病の児童生徒の理解と教育的支援	白血病の児童生徒の身体面・心理面・生活面・学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。	講義
第10回	ネフローゼ症候群の児童生徒の理解と教育的支援	ネフローゼ症候群の児童生徒の身体面・心理面・生活面・学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。	講義
第11回	気管支ぜんそくの児童生徒の理解と教育的支援	気管支ぜんそくの児童生徒の身体面・心理面・生活面・学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。	講義
第12回	単純性肥満の児童生徒の理解と教育的支援	単純性肥満の児童生徒の身体面・心理面・生活面・学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。	講義
第13回	筋ジストロフィーの児童生徒の理解と教育的支援	筋ジストロフィーの児童生徒の身体面・心理面・生活面・学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。	講義
第14回	心身症の児童生徒の理解と教育的支援	心身症の児童生徒の身体面・心理面・生活面・学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。	講義
第15回	重症心身障害児の理解と教育的支援	重症心身障害児の一般的特徴や状態像について概説し、重症心身障害児の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導等に関する教育的支援について理解を深める。	講義

授業方法(オンデマンド、アクティブ・ラーニング等)								
	事後学修課題を通して、授業内容の理解や病弱・身体虚弱児の理解、病弱教育の在り方を考える。							

評価方法及び評価基準	評価は、定期試験、事後学修課題、授業への参加度により総合評価（１００点，100%）をする。 定期試験（５０点，５０%）　病弱教育に関する基本的な内容や専門的知識、指導・支援の方途に関する修得状況について評価する。 事後学修課題（３０点，３０%）　各回における課題レポートについて、授業内容を踏まえ自分の考えを論理的に述べているかを評価する。 授業への参加度（２０点，２０%）　授業への参加度について評価する。
課題等	事前学修の課題について、調べた内容を授業内で発表をする。 事後学修としての課題レポートについて、提出後再考する点やさらに調べて理解を深める点を付し、次時に返却する。
事前事後学修	２単位科目では、週あたり３時間程度の授業外学修内容が必要である。 事前学修：事前に授業内容におけるキーワードを提示する。提示されたキーワードを調べ授業に臨む。 事後学修：授業後の課題レポート作成を通して授業内容の理解を深めるようにする。病弱・心身虚弱児の理解と病弱教育の在り方を考える。
教材教科書参考書	宮本信也・土橋圭子編集　『病弱・虚弱児の医療・療育・教育　改訂３版』，金芳堂 ISBN:978-4-7653-1627-9
留意点	今日のインクルーシブ教育のシステム構築をめざした特別支援教育の取り組みの中で、病弱・身体虚弱児個々の教育的ニーズに即応した指導・支援の基本的内容の修得に努めてください。保護者理解及び生命倫理、人生観などについて考えて欲しい。 授業中に紹介する関連図書を調べ病弱教育の理解を深めてください。

科目名	肢体不自由者教育論Ⅰ	科目コード 科目ナンバリング	W71007 W-KYT02-07.	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	前期
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	奈良岡　裕 （実務経験のある教員）		授業形態	講義	単独	

授業の概要	〔授業の主旨〕 肢体不自由教育の歴史、現状、児童生徒の理解、教育課程の編成、指導の内容・方法等に関する理論や知識を学び、肢体不自由教育の基本について理解を深める。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2,4-1,4-2,5-1,5-2,5-3に関連している。
到達目標	１　肢体不自由教育の歴史的変遷や現状及び対象となる児童生徒の障害についてまとめる。 ２　肢体不自由教育における自立活動の重要性や主な指導内容について説明できる。 ３　肢体不自由教育における教育課程編成に関する基本的事項について説明できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容	備考
第1回	ガイダンス、肢体不自由教育の理念	・「クルュッペルハイム」について調べておくこと。 ・クルュッペルハイムの理念 ・高木憲次が肢体不自由教育に及ぼした影響をまとめる。	
第2回	肢体不自由教育の歴史	・柏学園、都立光明特別支援学校について調べておくこと。 ・整形外科学の発展と肢体不自由教育 ・講義内容を基に我が国の肢体不自由教育の歴史をまとめる。	
第3回	肢体不自由教育の現状と仕組み	・令和４年度青森県の特別支援教育で学校・在籍数等を調べておくこと ・就学制度と特別支援学校数、特別支援学級数、在籍児童生徒数等 ・県内の肢体不自由者の教育の場をまとめる。	小テスト
第4回	肢体不自由児の理解	・「肢体不自由」の定義を確認しておくこと。 ・起因疾患と障害の理解 ・肢体不自由教育における起因疾患と変遷をまとめる。	
第5回	肢体不自由の障害特性と教育の意義	・「肢体不自由の障害特性」について調べておくこと。 ・肢体不自由の障害特性に応じた教育の役割 ・講義内容を基に学校でできるねらいや配慮事項をまとめる。	
第6回	教育課程Ⅰ 教育課程編成の基本	・「教育課程の意義」について調べておくこと。 ・教育課程編成の手順と評価 ・教育課程編成に関する法令についてまとめる。	小テスト
第7回	教育課程Ⅱ 重複障害者等に関する教育課程の取扱い	・「重複障害者等に関する教育課程の取扱い」を調べておくこと。 ・学校教育法施行規則と学習指導要領における規定 ・講義内容を基に各規定のポイントについてまとめる。	
第8回	教育課程Ⅲ 特別支援学校における教育課程編成	・「教育課程の類型化」について調べておくこと。 ・多様性に応じた教育課程編成の工夫 ・肢不特別支援学校の教育課程編成についてまとめる。	
第9回	教育課程Ⅳ 小・中学校における教育課程編成	・通常学級や特別支援学級での困り感について予想しまとめておくこと。 ・通常学級や特別支援学級における適切な学習 ・教育課程編成における両者の比較についてまとめる。	小テスト
第10回	肢体不自由教育の指導Ⅰ　自立活動	・「自立活動」の目的と内容について調べておくこと。 ・肢体不自由の特性に応じた自立活動の具体的内容 ・肢体不自由に関連が深い内容と配慮事項をまとめる。	レポート課題
第11回	肢体不自由教育の指導Ⅱ　身体の動き	・「筋緊張、関節可動域、拘縮、運動発達」について調べておくこと。 ・肢体不自由の特性に応じた身体機能を高める学習 ・姿勢と運動の指導における注意事項をまとめる。	
第12回	肢体不自由教育の指導Ⅲ　コミュニケーション	・肢体不自由児のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ障害について調べておくこと。 ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを豊かにする指導内容と補助的手段の活用 ・自立活動のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ区分の５項目についてまとめる。	
第13回	肢体不自由教育の指導Ⅳ　医療的ケア	・「医療的ケア」について調べておくこと。 ・医療的ケアの内容と実施に係る制度 ・医療的ケアを実施するための研修制度についてまとめる。	
第14回	肢体不自由の特性に応じた指導	・「ﾑｰﾌﾞﾒﾝﾄ教育、動作法、図と地」について調べておくこと。 ・感覚ー運動、視知覚に働きかける学習 ・運動療法、心理療法についてまとめる。	
第15回	肢体不自由教育Ⅰのまとめ	・「肢体不自由者教育総論Ⅰ」での資料や小テストを整理・確認すること。 ・肢体不自由者教育論Ⅰの要点 ・改めて要点を確認して試験に備える。	レポート提出

授業方法（ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ、ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞ等）								
	特になし							

評価方法及び評価基準	講義への参加度（３０％）、レポート（３０％）、試験（４０％）により総合的に評価する。 なお、レポート提出に加え、授業の進行を見ながら確認小テストを適宜実施する。
課題等	レポートについて、授業で指示する。
事前事後学修	配付された資料を基に各自講義を振り返り、主題毎に、授業内容を予習・復習し、学修を深めることが必要である。
教材教科書参考書	安藤隆男・藤田継道編著（2015）　『よくわかる肢体不自由教育』　ミネルヴァ書房 他に、適宜資料を配布する。 なお、①特別支援学校　教育要領・学習指導要領、②特別支援学校学習指導要領解説　総則等編（幼稚部・小学部・中学部）、③同解説各教科等編（小学部・中学部）、④同解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）は、常時手許において参照できるようにすること。 参考書：『新版・キーワードブック特別支援教育-インクルーシブ教育時代の基礎知識』　クリエイツかもがわ
留意点	紹介する参考図書等を積極的に購読し、「肢体不自由教育」への関心を深めてほしい。

科目名	肢体不自由者教育論Ⅱ	科目コード 科目ナンバリング	W71008 W-KYT03-08.	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	後期
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	奈良岡　裕 （実務経験のある教員）		授業形態	講義	単独	

授業の概要	〔授業の主旨〕 肢体不自由者教育総論Ⅰで学んだ基本を踏まえ、授業見学や映像視聴及び演習等を通して、肢体不自由教育に求められるより具体的な知識、技能、教育観について理解を深める。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2,4-1,4-2,5-1,5-2,5-3に関連している。
到達目標	１　肢体不自由教育の実践を見学し、特別支援学校や特別支援学級での学習活動についてまとめる。 ２　肢体不自由教育における個々の実態に応じた具体的学習課題を選定することができる。 ３　肢体不自由教育の課題や展望に関する基本的事項についてまとめる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容	備考
第1回	学校現場の実際(1) 特別支援学校における教育	・青森県内の特別支援学校（肢体不自由）のHPを調べておくこと ・小中高等部の概要、教育課程の編成 ・各校の状況を確認し、取組の現状を説明できる。	
第2回	学校現場の実際(2) 特別支援学校における教育	・北東北県内の特別支援学校（肢体不自由）のHPを調べておくこと ・センター的機能　・医療的ケア　・進路指導 ・各校の状況を熟読し、教育課程のあり方を説明できる。	
第3回	特別支援教育とICT	・肢体不自由教育における教材・教具について調べておくこと。 ・ICTの活用、自作教材・教具の作成と活用 ・教材・教具作成上のポイントについてまとめる。	小テスト
第4回	保護者との連携	・「身体障害者手帳、育成医療、就学奨励費」について調べておくこと。 ・保護者との連携、関連機関との連携 ・保護者との連携についてまとめる。	
第5回	指導の実際Ⅰ 脳性まひ	・「脳性まひ」について調べておくこと。 ・特別支援学校における脳性まひ児の学習の実際 ・講義内容を基に脳性まひの指導上の配慮事項をまとめる。	
第6回	指導の実際Ⅱ 重複障害(1)	・健常乳幼児の発達」に関する資料について調べておくこと。 ・領域別発達段階表を活用した重症心身障害児の実態理解 ・領域別発達プロフィールの作成手順についてまとめる。	小テスト
第7回	指導の実際Ⅲ 重複障害(2)	・最近接領域」について調べておくこと。 ・発達課題から導き出される具体的指導内容 ・領域別発達プロフィールから指導内容を考えレポートする。	
第8回	指導の実際Ⅳ 進行性筋ジストロフィー	・進行性筋ジストロフィー」について調べておくこと。 ・特別支援学校等における筋ジス児の学習の実際 ・講義内容を基に筋ｼﾞｽﾄﾛﾌｨｰの指導上の配慮事項をまとめる。	
第9回	指導の実際Ⅴ 二分脊椎、先天性骨形成不全	・「二分脊椎、先天性骨形成不全」について調べておくこと。 ・特別支援学校等における先天性骨形成不全の学習の実際 ・講義内容を基に先天性骨形成不全の指導上の配慮事項をまとめる。	小テスト
第10回	キャリア教育と進路指導	・「今後の学校におけるｷｬﾘｱ教育・職業教育の在り方について(答申)」 ・キャリア教育の定義と意義 ・講義内容を基に進路指導の充実のための要素についてまとめる。	レポート課題
第11回	関係機関との連携	・「療育、医協連携、個別の教育支援計画」について調べておくこと。 ・特別支援学校と隣接医療機関との連携の実際 ・肢体不自由教育における関係機関との連携による効果をまとめる。	
第12回	インクルーシブ教育システム構築における肢体不自由教育	・インクルーシブ教育システムの構築」について調べておくこと。 ・肢体不自由に応じた合理的配慮の観点 ・期待されるコーディネーターの役割をまとめる。	
第13回	肢体不自由教育に関連する福祉制度等の活用	・「身体障害者手帳、育成医療、就学奨励費」について調べておくこと。 ・肢体不自由教育を支える諸制度とその活用 ・身体障害者手帳のメリットについてまとめる。	
第14回	肢体不自由教育の課題と展望	・障害者差別解消法」について調べておくこと。 ・障害者基本法の改正等と学校教育 ・肢体不自由教育の今後の在り方についてまとめる。	
第15回	肢体不自由教育Ⅱのまとめ	・授業で配付した資料や小テストの内容を整理・確認すること。 ・肢体不自由者教育論Ⅱの要点 ・改めて授業内容の要点を確認して試験に備える。	レポート提出

授業方法（ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ、ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞ等）							
特になし							

評価方法及び評価基準	講義への参加度（３０％）、レポート（３０％）、試験（４０％）により総合的に評価する。 なお、レポート提出に加え、授業の進行を見ながら確認小テストを適宜実施する。
課題等	小レポートや課題レポートについて、授業で指示する。
事前事後学修	配付された資料を基に各自講義を振り返り、主題毎に、授業内容を予習・復習し、学修を深めることが必要である。
教材教科書参考書	教科書　安藤隆男・藤田継道編著（2015）　『よくわかる肢体不自由教育』　ミネルヴァ書房 他に、適宜資料を配布する。 なお、①特別支援学校　教育要領・学習指導要領、②特別支援学校学習指導要領解説　総則等編（幼稚部・小学部・中学部）、③同解説 各教科等編（小学部・中学部）、④同解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）は、常時手許において参照できるようにすること。 参考書：『新版・キーワードブック特別支援教育-インクルーシブ教育時代の基礎知識』　クリエイツかもがわ
留意点	紹介する参考図書等を積極的に購読し、「肢体不自由教育」への関心を深めてほしい。

科目名	視覚障害者教育総論	科目コード	W71015	単位数 時　間	1単位 16時間	対象 学年	2年	開講 学期	後期
		科目ナンバリング	W-KYT01-10.						
区分	資格関係科目	担当者名	中村　紹子 （実務経験のある教員）			授業 形態	講義		単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 ・視覚障害教育の基礎・基本的な知識、理論を解説し、理解できるようにする。 ・全盲や弱視（ロービジョン）の教育内容、方法を解説する。疑似体験や演習を通して理解と興味を促す。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2,4-1,4-2,5-1,5-2,5-3に関連している。
到達目標	・視覚障害児の教育指導に必要な方法や配慮事項を理解し、説明できる。 ・視覚障害児教育の触覚や聴覚の活用、視覚を活用した教材教具について理解し、その必要性や特徴を説明できる。 ・視角障害児教育の現状と課題を考察して、教育の適切な場や制度等を説明できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	視覚障害の定義と眼疾患	・視覚障害の概念や定義を知る ・視機能、眼疾患の種類を知る ・教育の場について考察する	
第2回	弱視児の指導	・弱視児の特性を知る　・見えやすい環境、指導の仕方を知る ・弱視の見え方を体験し、指導の工夫を考察する。	
第3回	盲児の指導	・盲児の特性を知る ・触覚や聴覚を活用した指導の仕方を知る ・目隠し状態での演習で、触覚や聴覚活用について考察する。	
第4回	点字	・点字の歴史とその概要について知る。 ・点字の読み書きを演習し、理解する。	
第5回	歩行指導	・歩行の仕方、白杖の役割を知る。 ・手引き歩行、伝い歩きを体験し、支援の仕方を考察する。	
第6回	視覚障害乳幼児の発達の支援	・早期教育の必要性を理解する。 ・支援の方法を学ぶ。　・保護者支援の在り方を考察する。	
第7回	教材・教具と支援機器、自立活動	・教科書や視覚補助具を知る。 ・視覚障害児の自立活動を知る。 ・教材教具を実際に触れることで理解を深める。	
第8回	視覚障害教育を支える、総括	・教育、福祉、医療の連携の必要性を理解する。 ・福祉制度を知る。・視覚障害者のスポーツを理解する。	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	グループワーク	ペアワーク	資料記入	クイズ、小テスト				
	視覚障害の状態をイメージした体験型学習を適宜実施する。点字演習、歩行体験を実施する。							

評価方法及び評価基準	・毎回終了時に課す小レポートの提出（5点×8回＝40点） ・全講義終了時に課すレポート課題の提出（60点）　計100点
課題等	小レポートは原則次回の講義の際に提出とする予定。
事前事後学修	提出された小レポートを基に、解説や質問への回答を必要に応じて行い、理解を促す。
教材教科書参考書	資料を配付する。
留意点	短期間の講義であるため、毎時間積極的姿勢で集中して学んでほしい。 小レポートに丁寧に取り組むことで、復習確認でき理解が増す。

科目名	聴覚障害者教育総論	科目コード	W71011	単位数 時　間	1単位 16時間	対象 学年	3年	開講 学期	後期
		科目ナンバリング	W-KYT01-11.						

区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	川村　泰弘 （実務経験のある教員）	授業 形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 聴覚障害特別支援学校における教育を中心に、聴覚障害教育の制度や歴史および現状、聞こえの仕組みやその障害の種類、聞こえを補う手段、聞こえの障害がもたらす発達上の特徴等について理解する。そのうえで、聴覚障害の早期発見と保護者支援、聴覚障害教育における教育課程や指導方法等についての学びを深める。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2,4-1,4-2,5-1,5-2,5-3に関連している。
到達目標	１　聴覚障害教育に尽くした人物と主な業績及び指導方法の変遷から、聴覚障害教育の歴史を説明することができる。 ２　聞こえの仕組みと聴覚障害の種類、聞こえを補う手段、聞こえの障害がもたらす発達上の特徴等について説明することができる。 ３　聴覚障害者教育の教育課程や指導方法等について概要を説明することができる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	聴覚障害児教育の歴史	・聴覚障害児教育の発展に尽力した人々とその業績、指導方法の変遷等、我が国の聴覚障害教育の歴史を学ぶ。	
第2回	聞こえの仕組みと障害の種類	・聞こえの仕組み、障害を受けた部位による聴覚障害の分類とその特徴、障害による聞こえの型について学ぶ。	
第3回	障害の早期発見と保護者支援	・聴覚障害の早期発見と保護者支援、関係機関との連携の重要性を理解するとともに新生児聴覚検査法について学ぶ。	
第4回	オージオグラムの見方と平均聴力損失の計算方法および補聴器の取扱い	・オージオグラムの見方と平均聴力損失の計算方法を学び、四分法で平均聴力を算出する。 ・補聴器の保守と取り扱いについて学ぶ。	
第5回	聴覚障害者の言語の獲得と言語使用の特徴	・聴覚障害に起因する言語獲得の困難と言語使用の特徴について学ぶ。	
第6回	聴覚障害とコミュニケーション	・聴覚障害児の指導で用いられている手話、筆記、聴覚口話、指文字、キューサイン等のコミュニケーション手段の特徴について学ぶ。	
第7回	聴覚障害教育の教育課程と自立活動	・聴覚障害特別支援学校(小学部～高等部)における教育課程編成とカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方、各教科等の指導の工夫、自立活動の内容と個別の指導計画の作成について学ぶ。	
第8回	講義全体のまとめ	・講義全体のまとめを行う。	

授業方法(ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ、ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞ等)	誘導ディスカッション	グループワーク	ペアワーク	資料記入	授業中のノート取り			

評価方法及び評価基準	レポート（４０％）、試験（３０％）、授業への参加度（３０％）
課題等	第３回目、第６回目の授業後に小レポートの課題を出す。小レポートは次の講義開始時に提出する。
事前事後学修	事前：次回の授業内容のポイント、キーワード等を提示するので、関連する情報を調べておくこと。 事後：資料を見て授業を振り返り、疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。
教材教科書参考書	教科書：随時、資料を配布する。 参考書：特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領　ISBN:978-4303124243 特別支援学校高等部学習指導要領　ISBN：978-4303124274 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）　ISBN：978-4304042294 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）ISNBN:978-4304042317 特別支援学校学習指導要領解説　総則編（高等部）ISBN：978-4863715257
留意点	授業で学んだ内容について、随時参考書を読んで理解を深めてください。

科目名	重複障害者教育総論	科目コード	W71012	単位数 時　間	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
		科目ナンバリング	W-KYT01-12.		16時間				

区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	川村　泰弘 （実務経験のある教員）	授業 形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 重複障害者はそれぞれ多様な教育的ニーズを抱えていることを理解し、学校教育として何を目標に、どのような内容・方法で教育・支援を行っていくべきかを考える。講義に加えて、重複障害、重症心身障害児の日常を記録した動画等の視聴を通して、重複障害者の特性と実態把握、心理的側面への配慮と教育課題、さらには医療や福祉との連携の大切さについて学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2,4-1,4-2,5-1,5-2,5-3に関連している。
到達目標	1　重複障害の定義を説明できる。 2　重複障害児者に対する教育の現状、重複障害者教育に係る教育課程の取扱い等について概要を説明するとともに、カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方を身につける。 3　重複障害児の障害状況に応じた課題学習と具体的指導方法を説明できる。 4　教育と医療や福祉との連携の必要性を説明できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容・授業時間外の学修	備考
第1回	重複障害の定義と関連する用語	・学習指導要領に示す重複障害の定義を学ぶ。 ・重度・重複、重症心身障害等関連用語を学ぶ。	
第2回	障害の重複・重度化の現状	・障害の重複・重度化の現状と教育の場を学ぶ。	
第3回	「盲ろう」の障害理解	・「盲ろう」の重複障害者の心理と支援の基本を学ぶ。	
第4回	重複障害児のコミュニケーション	・発信行動と受信行動の考えを基にした重複障害児のコミュニケーションの定義とコミュニケーション関係を築くための基本的な係わり方を学ぶ。	
第5回	重複障害児の教育課程（個別の指導計画の作成とカリキュラム・マネジメント）	・重複障害児に対する教育課程の編成（訪問教育を含む）の基本的な枠組みを理解するとともに、指導事例を基に個別の指導計画の作成とカリキュラム・マネジメントの考え方を学ぶ。	
第6回	重複障害児の指導	・指導課題の設定と指導内容・方法（「感覚と運動」「学習・概念行動」「記号操作」「市販アプリやタブレット端末等を活用」等）について学ぶ。	
第7回	医療的ケアの現状と課題	・特別支援学校における医療的ケアの基本的な考え方と実施体制について学ぶ。	
第8回	講義全体のまとめ	・講義全体のまとめを行う。	

授業方法(ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ、ｱｸﾃｨﾌﾞ･ﾗｰﾆﾝｸﾞ等)	誘導ディスカッション	グループワーク	ペアワーク	資料記入	授業中のノート取り			

評価方法及び評価基準	レポート（４０％）、試験（３０％）、授業への参加度（３０％）
課題等	第３回目、第６回目の授業後に小レポートの課題を出す。小レポートは次の講義開始時に提出する。
事前事後学修	事前：次回の授業内容のポイント、キーワード等を提示するので、関連する情報を調べておくこと。 事後：資料を見て授業を振り返り、疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。
教材教科書参考書	教科書：随時、資料を配布する。 参考書：特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領　ISBN:978-4303124243 特別支援学校高等部学習指導要領　ISBN：978-4303124274 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）　ISBN：978-4304042294 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）ISNBN:978-4304042317 特別支援学校学習指導要領解説　総則編（高等部）ISBN：978-4863715257
留意点	授業で学んだ内容について、随時参考書を読んで理解を深めてください。

科目名	発達障害者教育総論	科目コード 科目ナンバリング	W71013 W-KYT01-13.	単位数 時　間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	前期
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	奈良岡　裕			授業 形態	講義	単独

授業の概要等	〔授業の主旨〕 ＡＳＤやＬＤ、ＡＤＨＤ等の発達障害について、それぞれの障害の要因や障害特性を理解する。また、感覚や認知及び行動の特性等に起因する対人関係の形成の難しさや、二次的な障害などさまざまな発達上の課題とその解決の方向性を探る。 発達障害者に対する特別の教育課程の編成や、指導内容や方法等を考えることを通してカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方を理解するとともに、地域のセンターとして特別支援学校の果たす役割の必要性を再確認する。 ※講義形式の授業であるが、可能な限り予習シートに基づく協議を取り入れる。
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2,4-1,4-2,5-1,5-2,5-3に関連している。
到達目標	１　ＡＳＤやＬＤ、ＡＤＨＤ等の発達障害の要因と障害特性について説明できる。 ２　発達障害者一人一人の状態、感覚や認知及び行動の特性に応じた基本的な教育的支援（自立活動との関連）について説明できる。 ３　発達障害のある児童生徒の指導事例を通して、特別支援学校が地域のセンターとしての果たすべき役割を説明できる。 ４　個別の指導計画の作成を通して特別の教育課程の編成とカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方を理解する。 ５　家庭や医療、福祉及び労働機関との連携の重要性を説明できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容	備考
第1回	教育における発達障害	発達障害者の指導の場とそれぞれにおける特別の教育課程の編成の基本的な考え方を理解する。さらに、幼稚園教育要領及び小学校、中学校又は高等学校校学習指導要領に記載の障害を有する児童生徒に対する配慮事項を確認する。	
第2回	ＡＳＤ（自閉スペクトラム症）の理解と支援	「自閉症」という概念と、その要因にまつわる歴史的経緯を理解する。	
第3回		自閉スペクトラム症の定義と障害特性を理解する。	小テスト１
第4回		ＴＥＡＣＣＨプログラム、構造化、視覚的情報の活用等を中心とした自閉スペクトラム症の生徒への教育的対応を考える。	
第5回	ＬＤ（学習障害）の理解と支援	ＬＤ（学習障害）の定義と障害特性を理解する。	
第6回		難易度を考慮した課題提示、スモールステップ化など学習障害の学習・行動特性に応じた教育的対応を考える。 読み書きをサポートするＩＣＴ教材・機器の活用について考える。	小テスト2
第7回	ＡＤＨＤ（注意欠如・多動症）の理解	ＡＤＨＤ（注意欠如・多動症）の定義と障害特性を理解する。	
第8回		ソーシャルスキルトレーニング、環境調整などＡＤＨＤの生徒への教育的対応を考える。	小テスト3
第9回	校内体制の確立と関係教育機関の連携	校内委員会の役割と特別支援教育の全体計画の立案など、校内指導体制の確立と域内の幼稚園や小中学校等との連携の在り方を考える。	レポート課題提示
第10回	高校通級の現状と課題	高校における「通級による指導」の導入の経緯と現状を知り、現在抱える問題点の解決のためのアイデアを考える。	小テスト４
第11回	発達障害児に見られる感覚と運動の問題	感覚の過反応や運動面の不器用さから学校生活の困難と自尊心の低下を招くことがある。その特性を理解し教育的対応を考える。	
第12回	二次的な障害の理解と予防	二次的な障害とはどのようなことか、また、その予防的な取り組みに向けて、学校教育の中でどのような指導や支援が必要かを考える。	
第13回	個別の指導計画の作成	指導事例を基づく個別の指導計画の作成を通して特別の教育課程の編成とカリキュラム・マネジメントの基礎的考え方を理解する。	個別の指導計画の作成（演習）
第14回	家庭や関係機関との連携と支援連携・協働	発達障害者に対する有効な指導と生活の質の向上を図るため、家庭や他機関の専門家との連携・協働のあり方を探る。	
第15回	インクルーシブ教育の現状	合理的配慮と基礎的環境整備の現状とインクルーシブ教育システム構築の課題を理解する。	レポート提出

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）								
	特になし							

評価方法及び評価基準	講義への参加度（３０％）、レポート（３０％）、試験（４０％）により総合的に評価する。 なお、レポート提出に加え、授業の進行を見ながら確認小テストを適宜実施する。
課題等	レポートについて、授業で指示する。
事前事後学修	配付された資料を基に各自講義を振り返り、興味・関心主題毎に、授業内容を予習・復習し、学習を深めることが必要である。
教材教科書参考書	教科書：適宜資料を配布する。 参考書：『はじめての特別支援教育　教職を目指す大学生のために　　改定版』　有斐閣アルマ 『新版・キーワードブック特別支援教育-インクルーシブ教育時代の基礎知識』　クリエイツかもがわ
留意点	なお、①特別支援学校　教育要領・学習指導要領、②特別支援学校学習指導要領解説　総則等編（幼稚部・小学部・中学部）、③同解説　各教科等編（小学部・中学部）、④同解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）は常時手許において参照できるようにすること。

科目名	教育実習（特別支援）	科目コード	W71014	単位数	3単位	対象学年	4年	開講学期	通年
		科目ナンバリング	W-KYT03-14.	時　間	45時間				
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	川村　泰弘		授業形態	実習	単独	

授業の概要等

〔授業の主旨〕

知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱を教育領域とする特別支援学校で２～３週間の教育実習を行う。
事前指導においては、教育実習生としての心構えを持つことができるよう、講義や映像資料を通して教育現場への理解を深める。
事後指導においては、実習全般及び研究授業等についての反省を踏まえて、目指す教師像を明確にする。
以上の授業をとおして、教育実習の意義を理解する。

〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕

ディプロマポリシーの2,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2,4-1,4-2,5-1,5-2,5-3に関連している。

到達目標

（事前）１　学校教員としての基礎的なマナー、校務分掌等の校内組織の役割、教材研究の方法の理解を深めるとともに、学習指導案の作成と模擬授業を通して、教育実習を実施するために必要な基礎的能力を身につける。
　　２　教育実習における留意事項を確認し、教育実習生としての心構えを持つ。
（実習）３　これまで学んだ理論やスキルを活用しながら教育実習に取り組み、特別支援学校の教員として必要な指導力、実践力を身につける。
　　(1) 児童生徒とのふれあいや実習校教員からの指導を通して、障害のある児童生徒の理解を深める。
　　(2) 特別支援学校の教員に求められる知識・技能・態度を学ぶ。
　　(3) 特別支援教育を担う教員としての使命感を自覚し、目指す教師像を明確にする。
（事後）４　実習指導教員及び実習校教員による指導を踏まえて、自らの授業、生徒指導、学級経営等について振り返り、教員としての適性を確認するとともに、課題を整理することで改善方法を考察する。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	事前指導①ガイダンス　教育実習（特別支援教育）の意義	・教育実習の目的と意義を確認する。		第16回	特別支援学校における教育実習	・実習校における教育実習（研究事業・授業研究を含む）に臨む。	
第2回	事前指導②　特別支援学校教員の一日	・教職員の勤務、服務、授業、学級事務等についての理解を深める。		第17回			
第3回	事前指導③　学習指導案の作成	・サンプルを基にした学習指導案の作成と発表・協議を行う。		第18回			
第4回	事前指導④　模擬授業	・作成した学習指導案による模擬授業の実施・協議を行う。		第19回			
第5回	事前指導⑤　記録の作成と活用	・実習日誌の記入や記録の取り方・活用の仕方を理解する。		第20回			
第6回	特別支援学校における教育実習	・実習校における教育実習（研究事業・授業研究を含む）に臨む。		第21回			
第7回				第22回			
第8回				第23回			
第9回				第24回			
第10回				第25回			
第11回				第26回			
第12回				第27回			
第13回				第28回	事後指導①　教育実習の成果と課題	・教育実習での成果と課題等をレポートにまとめる。	
第14回				第29回	事後指導②　実習の体験発表	・レポート「特別支援学校の教育実習で学んだこと」の報告会を行う。	
第15回				第30回	事後指導③　まとめ	・「目指す教師像」をまとめる。（履修ファイルに綴じ込む）	

授業方法（オンデマンド、アクティブ・ラーニング等）	誘導ディスカッション	実習、フィールドワーク	発表、ポスター作成	資料記入	授業中のノート取り			

評価方法及び評価基準

教育実習校の評価（70%）と事前・事後指導の模擬授業・発表・レポート（30%）により総合的に判断する。

課題等

体験発表の際には、示された様式のレポートに加えて研究授業で作成した学習指導案や用いた教材・教具等を用意する。

事前事後学修

予習：シラバスを見て、次時の内容に関する「実習の手引」の該当箇所を読み、考えをまとめて授業に臨むこと。
復習：その日の学習内容に関するポイントを確認し、疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。

教材教科書参考書

教科書：学内資料『教育実習（特別支援学校）の手引』を配布する。

留意点

実習校の校長、教頭、教育実習主任、指導教員の指導・助言を誠実に受け止めるよう努めること。
社会人としてふさわしい態度・服装・言葉遣いに留意すること。
目標と課題意識を持って教育実習に臨み、教員としての資質能力を高めるように努めること。
※実習先である特別支援学校の配属学部に関する学習指導要領とその解説を持参すること。